

令和元年度沖縄県高校生議会 記録集



沖縄県議会

はじめに

沖縄県議会では、議会改革の一環として、県内の高校から選出された高校生議員が、本会議さながらに知事等へ質問・発言を行うことで、政治がより身近なものであると感じていただくことを目的に、議会 110 年の節目でもある令和元年に 10 年ぶり 2 回目となる高校生議会を開催いたしました。

今回の高校生議会には、県下 18 校 56 名の高校生に御参加いただき、交通、教育、環境、福祉、米軍基地などさまざまな分野について、ご家族や友人との意見交換、担当教諭からの助言などをもとにみずから作成した質問がなされました。また、参加校の半数となる 9 校が再質問を行い、写真パネルを用いて説明した高校や開催直前に火災で焼け落ちた首里城の再建に向けた質問を行った高校もありました。これに対し、知事をはじめ各部署長からも具体例を交えた分かりやすく丁寧な御答弁いただくなど、本会議と同様、真摯にご対応いただきました。

この記録集には、高校生議会の概要や当日の写真及び会議録、高校生議員や引率教諭の事後アンケートなどを掲載しております。

このたびの高校生議会を契機として、学校現場やご家庭などにおいて身近な問題を多面的・多角的にとらえ考えることや、話し合いを通じて県政や県議会に対する一層の関心と知識を深めるためにお役立ていただければ幸いです。

最後に、沖縄県高校生議会の開催にあたり、各学校や保護者、県執行部などご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

沖縄県議会議長 新里 米吉

目 次

1	開催概要	
	開催概要	1
	スケジュール	2
2	高校生議会議員一覧	
	高校生議会議員一覧	3
	各高校写真	4
3	配席図（高校生議会議員、説明員）	7
4	質問通告書	11
5	会議録	
	次第等	29
	開会	31
	沖縄県議会議長挨拶（新里 米吉君）	31
	高校生議会議員質問	
	西原高校	32
	本部高校	33
	北谷高校	34
	豊見城南高校	36
	八重山高校	37
	名護高校	38
	南風原高校・支援学校	39
	那覇高校	40
	沖縄尚学高校	41
	糸満高校	42
	宮古高校	43
	南部工業高校	45
	宜野座高校	46
	開邦高校	48
	沖縄工業高校	50
	沖縄カトリック高校	52
	首里高校	53
	那覇国際高校	55
	沖縄県知事挨拶（玉城 デニー君）	56
	高校生議員代表挨拶（宜野座高等学校）	57
	沖縄県議会副議長挨拶（赤嶺 昇君）	58
6	写真	61
7	アンケート（高校生議会議員、引率教諭）	83

1 令和元年度 沖縄県高校生議会 開催概要

令和元年度沖縄県高校生議会 開催概要

1 開催概要

趣旨

開かれた県議会を実現するため、県内各地域の高校から選出された沖縄県高校生議会議員が、議場で知事等へ質問・発言を行うことで、県政及び県議会の運営等について知識を深めるとともに、多くの高校生を含む若者に将来の主権者としての政治参加意識の醸成・普及啓発を図る。

開催日時

令和元年 11 月 7 日（木）10:40～16:33

参加校・人数

18 校、56 人の高校生

高校生議会議員の選定方法

県内の高校(公立、私立(通信制を除く))を対象に、教育委員会等の協力を得て全県から公募し選定した。また、公募の際には、県議会議員の定数や選挙区数等を基本として学校数及び生徒数を選定すること、1校からの参加は2～4人を基本とし、質問は学校単位で行うこと等を予め示した。

事前準備

北部・中部・南部・宮古・八重山地区で事前説明会を開催し、高校生議員達は、県議会の仕組み等について学ぶとともに、他校の生徒達と意見交換を行った。また、議長校3校は開催直前のリハーサルを行い、議事運営について事前に理解を深めた。

質問・発言の時間数

1校あたり、質問時間は3分をめぐり、質問・答弁を含めた全体の時間は15分以内とした。15分の時間内であれば再質問も行えることとした。

質問・発言の分野

高校生が、日頃の生活で感じ考えてきたこと等をもとに、交通、教育、環境、福祉、医療、基地など、様々な分野で質問を行った。

高校生議長による運営

参加校のうち3校が議長校となり、議長としてそれぞれ午前、午後の前半、午後の後半の議事運営を担った。

2 タイムスケジュール

時間	内容
9:00 ~ 9:55	受付
9:55 ~ 10:25	リハーサル ・当日のスケジュール説明 ・本会議場の説明、注意事項等 ・質問方法等の実演
10:25 ~ 10:30	記念集合撮影 （知事、議長と共に）
10:30 ~ 10:40	休憩
10:40 ~ 11:37	本会議 1 ・沖縄県議会議長あいさつ ・質問 1 番目 西原高校 2 番目 本部高校 3 番目 北谷高校 4 番目 豊見城南高校
11:37 ~ 13:00	休憩（昼食） ・議会庁舎内図書室・議長応接室見学（15分程度、希望者対象）
13:00 ~ 14:28	本会議 2 ・質問 5 番目 八重山高校 6 番目 名護高校 7 番目 南風原高校・支援学校 8 番目 那覇高校 9 番目 沖縄尚学高校 10 番目 糸満高校 11 番目 宮古高校 12 番目 南部工業高校
14:28 ~ 14:48	休憩
14:48 ~ 16:32	本会議 3 ・質問 13 番目 宜野座高校 14 番目 開邦高校 15 番目 沖縄工業学校 16 番目 沖縄カトリック高校 17 番目 首里高校 18 番目 那覇国際高校 ・沖縄県知事あいさつ ・高校生議員代表あいさつ（宜野座高校） ・沖縄県議会副議長あいさつ
16:33	終了

2 令和元年度 沖縄県高校生議会
高校生議会議員 一覧

高校生議会議員一覧

質問 順番	学校名	参加生徒名	質問 順番	学校名	参加生徒名		
1	西原高校 (議長校 2)	稲福 明李	11	宮古高校	瑞慶山 義愛		
		知念 鈴			鈴木 ジョージ		
		幸地 玲奈			西里 凜		
		渡慶次 莉枝			宮國 優乃佳		
2	本部高校	大城 琉	12	南部工業高校	島袋 暁矢		
		仲宗根 由人			宮里 璃玖斗		
3	北谷高校	脇田 織衣			13	宜野座高校 (生徒代表 挨拶)	仲間 重悟
		伊禮 果央					宇座 愛翔
		具志堅 七虹	島田 ひまり				
		富村 由美		仲地 彩葉			
4	豊見城南高校	新垣 愛里			仲本 妃那		
5	八重山高校	田淵 鈴夏	14	開邦高校	東 小恵		
		袴田 颯介			池間 はな		
		波照間 早希			久場 悠生		
6	名護高校	座間味 潤也			15	沖縄工業高校	加蘭 太一
		玉城 郁弥	山城 勇樹				
		仲里 萌子	真座 勇気				
		親川 光	新垣 大輔				
7	南風原高校・支援 学校 (議長校 3)	山田 泰正	16	沖縄カトリック 高校	ラザフォード ライアン ノボル		
		新垣 向日葵			久志 香己乃		
		新里 楓	17	首里高校	渡久山 健		
		大城 優衣			石川 ひなの		
8	那覇高校	大城 史芳子	18	那覇国際高校 (議長校 1)	友寄 英翔		
		川上 莉央			久志 顕介		
		又吉 晴			赤嶺 天良		
9	沖縄尚学高校	錢 意凝					金城 実李
		國仲 元之輔			川村 梨紗		
10	糸満高校	諸見里 真知	参加 18校 56人				
		長嶺 葵					





3 令和元年度 沖縄県高校生議会
配席図(高校生議員、説明員)

令和元年度 高校生 議会

議席配置図 (本会議 1 10:40 ~ 12:00)

令和元年11月7日

開邦 東 小恵 37	開邦 池間 はな 38	開邦 悠生 39	開邦 加藤 太一 40	沖繩工業 山城 勇樹 41	沖繩工業 真座 勇氣 42	沖繩工業 新垣 大輔 43	沖繩カトリック ラオファネート 久志香己乃 44	沖繩カトリック 渡久山 健 46	首里 石川ひなの 47	首里 友寄 英翔 48	
糸満 諸見里真知 24	糸満 長嶺 葵 25	宮古 瑞慶山義愛 26	宮古 鈴木ジョージ 27	宮古 西里 凜 28	宮古 宮國優乃佳 29	南部工業 鳥袋 晔矢 30	南部工業 宮里璃玖斗 31	南部工業 宇座 愛翔 33	宜野座 島田ひまり 34	宜野座 仲地 彩葉 35	宜野座 仲本 妃那 36
八重山 田淵 鈴夏 12	八重山 袴田 颯 13	八重山 波照間早希 14	名護 座間味潤也 15	名護 玉城 郁弥 16	名護 仲里 萌子 17	名護 親川 光 18	那覇 大城史芳子 19	那覇 川上 莉央 20	那覇 又吉 晴 21	沖繩尚学 錢 意凝 22	沖繩尚学 國仲元之輔 23
本部 大城 琉 1	本部 仲宗根由人 2	北谷 脇田 織衣 3	北谷 伊禮 果央 4	北谷 具志堅七虹 5	北谷 富村 由美 6	北谷 新垣 愛里 7	豊見城南 稻福 明李 8	西原 知念 鈴 9	西原 幸地 玲奈 10	西原 渡慶次莉枝 11	
説明員席	説明員席	説明員席	議長席 那覇国際			演壇			県議会正副議長席		
説明員席	説明員席	説明員席	議長席 那覇国際			演壇			那覇国際 南風原・高等支援 高校生議長校席		
説明員席	説明員席	説明員席	議長席 那覇国際			演壇			事務局席		

令和元年度 高校生 議会

議席配置図 (本会議 2 13:00 ~ 15:00)

令和元年11月7日

開邦 東 小恵 37	開邦 池間 はな 38	開邦 久場 悠生 39	開邦 山城 勇樹 40	沖縄工業 真座 勇気 41	沖縄工業 新垣 大輔 42	沖縄カトリック 久志香己乃 43	沖縄カトリック 乃 健 44	沖縄カトリック 渡久山 健 45	首里 石川ひなの 46	首里 友寄 英翔 47	首里 48	
系満 諸見里真知 24	系満 長嶺 葵 25	宮古 瑞慶山義愛 26	宮古 西里 凜 27	宮古 宮國優乃佳 28	宮古 鳥袋 晔矢 29	南部工業 宮里璃玖斗 30	南部工業 仲間 重悟 31	南部工業 宇座 愛翔 32	宜野座 島田ひまり 33	宜野座 仲地 彩葉 34	宜野座 仲本 妃那 35	36
八重山 田淵 鈴夏 12	八重山 袴田 颯 13	八重山 波照間早希 14	名護 座間味潤也 15	名護 玉城 郁弥 16	名護 仲里 萌子 17	名護 光 親川 18	那覇 大城史芳子 19	那覇 川上 莉央 20	那覇 又吉 晴 21	沖縄尚学 錢 意凝 22	沖縄尚学 國仲元之輔 23	
本部 大城 琉 1	本部 仲宗根由人 2	北谷 脇田 織衣 3	北谷 伊禮 果央 4	北谷 具志堅七虹 5	北谷 富村 由美 6	北谷 新垣 愛里 7	豊見城南 山田 泰正 8	南風原・高等支援 新垣向日葵 9	南風原・高等支援 新里 楓 10	南風原・高等支援 大城 優衣 11		
説明員席	説明員席	説明員席	説明員席	議長席	西原	正副議長・説明員席	西原	那覇 国際	事務局長席	事務局席		

令和元年度 高校 生 議 会

議 席 配 置 図 (本 会 議 3 15:15 ~ 17:00)

令 和 元 年 11 月 7 日

開邦 東 小恵 37	開邦 池間 はな 38	開邦 久場 悠生 39	沖繩工業 山城 勇樹 41	沖繩工業 真座 勇気 42	沖繩工業 新垣 大輔 43	沖繩カトリック 久志香己乃 44	沖繩カトリック 45	首里 渡久山 健 46	首里 石川ひなの 47	首里 友寄 英翔 48
------------------	-------------------	-------------------	---------------------	---------------------	---------------------	------------------------	---------------	-------------------	-------------------	-------------------

系満 諸見里真知 24	系満 長嶺 葵 25	宮古 瑞慶山義愛 26	宮古 西里 凜 28	宮古 宮國優乃佳 29	南部工業 鳥袋 晁矢 30	南部工業 宮里璃玖斗 31	南部工業 仲間 重悟 32	南部工業 宇座 愛翔 33	宜野座 島田ひまり 34	宜野座 仲地 彩葉 35	宜野座 仲本 妃那 36
-------------------	------------------	-------------------	------------------	-------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------

八重山 田淵 鈴夏 12	八重山 袴田 颯 13	八重山 波照間早希 14
--------------------	-------------------	--------------------

名護 座間味潤也 15	名護 玉城 郁弥 16	名護 仲里 萌子 17	名護 親川 光 18	那覇 大城史芳子 19	那覇 川上 莉央 20
-------------------	-------------------	-------------------	------------------	-------------------	-------------------

那覇 又吉 晴 21	沖繩尚学 錢 意凝 22	沖繩尚学 國仲元之輔 23
------------------	--------------------	---------------------

本部 大城 琉 1	本部 仲宗根由人 2	北谷 脇田 織衣 3
-----------------	------------------	------------------

北谷 伊禮 果央 4	北谷 具志堅七虹 5	北谷 富村 由美 6	豊見城南 新垣 愛里 7	那覇国際 久志 顕介 8
------------------	------------------	------------------	--------------------	--------------------

那覇国際 赤嶺 天良 9	那覇国際 金城 実季 10	那覇国際 川村 梨紗 11
--------------------	---------------------	---------------------

説 明 員 席

正 副 議 長 ・ 説 明 員 席

説 明 員 席

南風原・高等支援
高 校 生 議 長 校 席

議 長 席

西 原 校 席

説 明 員 席

事 務 局 席

演 壇

演 壇

南風原・高等支援

説明員 席（傍聴者用）

令和元年11月7日

事務局職員
事務局職員
事務局職員
事務局職員
事務局職員

総務部長 金城 賢
知事公室秘書防災統括監 前原 正人
農林水産部長 長嶺 豊
商工労働部長 嘉数 登
文化観光スポーツ部長 新垣 健一
土木建築部長 上原 国定

局長 平田 善則
議長校 那覇国際高等学校 西原高等学校 南風原高等学校 高等支援学校・校

議長校議員
議長校議員
議長校議員
議長校議員
議長校議員
議長校議員
議長校議員
議長校議員

総務部長 金城 弘昌
知事公室長 池田 竹州
政策調整監 島袋 芳敬
企画部長 宮城 力
環境部長 棚原 憲実
子ども生活福祉部長 大城 玲子
保健医療部長 砂川 靖

演壇

警察本部警務部長 岡本 慎一郎
教育長 平敷 昭人
県議会副議長 赤嶺 昇
県議会議長 新里 米吉

知事 玉城 デニー
副知事 謝花 喜一郎

速記席

4 令和元年度 沖縄県高校生議会
質問通告書

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	西原高等学校			
		学 年	2 年	2 年	2 年	2 年
1		(ふりがな) 氏 名	いなふく あかり 稲福 明李	ちねん すず 知念 鈴	こうち れな 幸地 玲奈	とけし まりえ 渡慶次 莉枝
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 子どもの未来応援					
	(質問項目) 個人で子ども食堂を行っている方に対しての助成金の援助について					
	(質問要旨) 私たちの近所で、個人で子ども食堂を行っている方がいてお話を聞くことができました。そこは企業や個人から食材の寄付で材料を賄っていますが、毎回の食堂を開くための安定した財源は得られていないと伺いました。そこで行政が行っている子どもの未来応援に関する助成金はどのようなものがあるかお聞きします。					
2	(分野名) 子どもの未来応援					
	(質問項目) 子ども食堂を支援するに当たっての予算について					
	(質問要旨) 子ども食堂を行うに当たって助成金の給付額はどれぐらいですか。また、県の予算はどれほどでしょうか。					
3	(分野名) 子どもの未来応援					
	(質問項目) 子ども食堂に関する広報活動について					
	(質問要旨) 先ほど紹介した、子ども食堂の運営をなさっている方に今の課題を尋ねたところ、子供がなかなか来ない現状があり、広報活動に課題を抱えていると伺いました。県としての子ども食堂の広報活動はどのようなことが行われていますか。					

この質問に関する会議録は32ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	本部高等学校			
		学 年	2 年	2 年		
2		(ふりがな) 氏 名	おおしろ ゆずる 大城 琉	なかそね ゆうと 仲宗根 由人		
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) 海岸への赤土流出における対策について					
	(質問要旨) 大雨が降ると赤土流出の被害が出ています。赤土流出防止のためにグリーンベルトを行っていると聞いています。本部町では、どのような場所でグリーンベルトを行っていますか。 またそれによって、赤土防止の効果は出ていますか。					
2	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) 海岸への赤土流出における対策について					
	(質問要旨) 海岸に推積した赤土は台風などで波が荒れると濁らせる原因となっている。海岸に推積した赤土の処理対応はどのように行っていますか。 また、処理をした赤土はどのようにしているのですか。					
3	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					

この質問に関する会議録は33ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	北谷高等学校			
		学 年	2 年	1 年	1 年	1 年
3	(ふりがな) 氏 名	わきだ おりえ 脇田 織衣	いれい かお 伊禮 果央	ぐしけん ななこ 具志堅 七虹	とみむら ゆみ 富村 由美	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 教育費の割合の減少について					
	(質問要旨) 沖縄県は高等学校や大学への進学率は年々上がってきていますが、全国との差はまだあり、全国最下位となっています。また、教育費の割合が前回調査と比べ全国順位を落としていますが、これらの要因と県の対策について意見をお聞かせください。					
2	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 国際交流事業の機会均等について					
	(質問要旨) 沖縄県はビジネスの分野においてアジア・太平洋地域とのネットワーク構築を進めており、将来沖縄で働く私たち高校生には、国際的視野でコミュニケーションや外交する力が求められると考えています。県では中高生を他国に派遣する短期・長期留学プログラムなどがありますが、人数や費用の関係で参加することができない中高生もいます。そこで、海外の人たちを、離島を含む沖縄に幅広く迎え入れ、交流体験をする招致事業などがあると、より多くの中高生たちに機会を与えられるのではないかと考えています。県内への招致事業への取り組みと国際交流事業の機会均等について意見をお聞かせください。					
3	(分野名) 子どもの未来応援					
	(質問項目) 若者の自殺防止対策について					
	(質問要旨) 沖縄県の自殺による死亡数は全国平均を上回っており、全国順位も前回調査よりも上がっています。全国調査では、10代の死因の2位は自殺となっており、同年代の人が自殺によって命を落していることに衝撃を受けました。県や市町村では、相談窓口やウェブサイト、フリーダイヤル、SNS、ゲートキーパーなどの取り組みがなされていますが、どの取り組みも10代の若者の認知度が低いように感じます。これらの自殺防止対策への効果はどのように検証されているのかお聞かせください。					

この質問に関する会議録は34ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	豊見城南高等学校			
		学 年	3 年			
4		(ふりがな) 氏 名	あらかき あいり 新垣 愛里			
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 経済労働					
	(質問項目) 文化遺産としての沖縄空手の普及・振興について					
	<p>(質問要旨)</p> <p>2020年東京オリンピックの公式種目決定などを受け、注目が高まってきている空手ですが、発祥の地である沖縄県の果たす役割も大きくなっていくと思われまます。例えば、空手を文化観光資源の一つと位置づけ、国内外の多くの愛好家を迎える際の受け入れ体制やユネスコ文化遺産登録に向けた関係諸団体との連携、広報活動等空手振興に向けた沖縄県の取り組み状況を伺います。</p> <p>また、2017年に開館した沖縄空手会館の活動状況や課題への取り組みについても伺います。</p> <p>さらに、施設等のハード面は整備され、空手発祥の地にふさわしい研さんの場として、今後の発展が期待されると思いますが、課題となる入館者数の増加をどのように図っていかれるのか、県民の財産としてどのように保存・発展させていくのか、県の見解を伺います。</p>					
2	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					
3	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					

この質問に関する会議録は36ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	八重山高等学校			
		学 年	2 年	2 年	2 年	
5		(ふりがな) 氏 名	たぶち すずか 田 淵 鈴 夏	はかまた さすけ 袴 田 颯 介	はてるま さき 波 照 間 早 希	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 文教厚生・子どもの未来応援					
	(質問項目) 離島における派遣費補助について					
	(質問要旨) 沖縄21世紀ビジョン基本計画及び同実施計画に、克服すべき沖縄の固有課題として、離島の条件不利性克服が挙げられていますが、離島に住む私たちの現状として、部活動に所属している生徒は、市からの補助金があるとはいえ、島外への遠征費や派遣費の負担が重く、費用の捻出に苦心している生徒がいるのが現状です。これに起因する勉学への影響など、さまざまな問題の解決のためにも、遠征費や派遣費の補助が必要だと感じますが、県からの補助は可能なのでしょうか。					
2	(分野名) 総務企画					
	(質問項目) 観光客のマナーについて					
	(質問要旨) 沖縄県は、観光客の増加を推進していますが、それに伴って発生する観光客によるポイ捨てなどのマナーの悪さについて、県としてはどのような対策をお考えですか。					
3	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					

この質問に関する会議録は37ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	名護高等学校			
		学 年	3年	2年	2年	2年
6	(ふりがな) 氏 名	ざまみ じゅんや 座間味 潤也	たまき いくや 玉城 郁弥	なかざと もえこ 仲里 萌子	おやかわ ひかる 親川 光	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 公共交通ネットワーク					
	(質問項目) 鉄軌道の建設について					
	(質問要旨) 2年前に実施されたアンケートで鉄軌道のルートについて検討されたと思いますが、現在はどのように進んでいるのでしょうか。鉄軌道の建設が実現すれば北部地域の発展につながると思い質問します。					
2	(分野名) 公共交通ネットワーク					
	(質問項目) 通学で利用するバスについて					
	(質問要旨) 名護高校は広範囲の地域から生徒が通学しています。通学の際にバスを利用する生徒も多いですが、地域によってはバスの本数が少なくルートも学校の前を通らないなどの状況があります。バスの本数をふやしたり、ルートの見直しについては、人材不足などの課題もあると思いますが、公共交通であるバスを充実させる取り組みは現在どのようなものがありますか。					
3	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) ごみに関すること。環境保護について					
	(質問要旨) 北部地域の海で、大量のペットボトルやプラスチックなどのごみが捨てられていたり、漂着している場所があります。地域で清掃活動などを行っていても難しい状況があります。観光産業が伸びている本県では環境保護の対策も重要になるとは思います。環境保護についてどのような取り組みが行われていますか。					

この質問に関する会議録は38ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	南風原高校・高等支援学校			
		学年	2年	2年	1年	1年
7	(ふりがな) 氏名	やまだ たいせい 山田 泰正	あらかき ひまり 新垣 向日葵	しんざと かえで 新里 楓	おおしろ ゆい 大城 優衣	
質問項目・要旨等						
1	(分野名)	公共交通ネットワーク				
	(質問項目)	バスの運行について				
	(質問要旨)	<p>私たちは、校内で沖縄県に対する要望についてのアンケートを実施しました。その結果、バスの運行に関しての要望が多くありました。</p> <p>その中でも、運賃の高さ、乗りかえの不便さ、本数の少なさなどの問題点が挙がりました。</p> <p>これらの問題について、県としてどのような解決策があるとお考えか教えてください。</p>				
2	(分野名)	土木環境				
	(質問項目)	歩道の設備について				
	(質問要旨)	<p>私たち学生は、歩道を日常的に利用しています。しかし、大きな道路から一步細い道に入ると、街灯が少ない暗い道や道路の幅が狭く、その上草木が生い茂っている道が多くあります。アルバイトや部活の帰宅途中に不審者に声をかけられたりなど危険な目に遭うことがあります。また、走行中の車から歩行者が見えづらいために事故が起こったケースもあります。そのことから、幅が狭く暗い道路にも街灯の設置を検討してほしいと考えています。</p> <p>それについて、県の御意見を伺います。</p>				
3	(分野名)	土木環境				
	(質問項目)	観光と環境について				
	(質問要旨)	<p>沖縄県は現在県外からの観光収入を多く得ています。観光の大きな一つの目的として「沖縄の自然環境」が挙げられます。その一方で、ホテルなどの建造物を自然を壊してまでたくさんつくられてしまっていることについて、沖縄県としてどう考えていますか。</p>				

この質問に関する会議録は39ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	那覇高等学校			
		学 年	2 年	2 年	2 年	
8		(ふりがな) 氏 名	おおしろ しほこ 大城 史芳子	かわかみ りお 川上 莉央	またよし はる 又吉 晴	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 歩行者信号の青点灯時間について					
	(質問要旨) 横断歩道の信号機の青点灯の長さは毎秒1メートルで計算されているが、加齢によって筋力やバランス感覚が低下している高齢者や、何らかの運動障害を持つ人々にとって、それは酷なものである。また、時間内で渡り切らなければならないという焦りから転倒してしまう可能性もある。近年、青延長用押しボタンつき信号機が普及してきているが、沖縄県は整備がまだ不十分である。よって、青延長用押しボタンつき信号機をふやすべきではないだろうかと考えています。それについて、県の考えを聞かせてください。					
2	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 高齢者のバス料金について					
	(質問要旨) 調べてみると2020年には、沖縄の人口の4人に1人が高齢者であるという。また、最近では高齢者による交通事故が多発しており、高齢者に対して迅速な免許返納を求める声が多くなっている。しかし、バスは料金が高いということから返納したがない人が多いと聞いています。そこで、高齢者のバスの運賃を割引するのは可能だろうか。それについて、県の考えを聞かせてください。					
3	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 高齢者のバス利用について					
	(質問要旨) 2と同様な理由により、バスは時刻表が見つらいことや、行き先、時間表の見方が分からないことも免許返納をためらう理由である。また、高齢者はスマートフォンを持っている人が少ないため、調べることもできない。よって、那覇バスターミナルにある「路線バス乗り換え案内」や「デジタル時刻表」をもっと普及すべきではないだろうか。それについて、県の考えを聞かせてください。					

この質問に関する会議録は40ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	沖縄尚学高等学校			
		学年	1年	2年		
9	(ふりがな) 氏名	ちえん いにん 錢 意凝	くになか げんのすけ 國仲 元之輔			
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 海外経験を豊富にもつ人材の重要性について					
	(質問要旨) 沖縄21世紀ビジョンの将来像IV、「世界に開かれた交流と共生の島」の達成のため沖縄県では「国際性と個性の涵養」と題し、グローバルリーダー育成海外短期研修を初めとする短期留学プログラムを実施してきた。しかし、これらのプログラムで可能な留学期間は長くても10カ月など長期的かつ豊富な海外経験を積めるものであるとは必ずしも言えないと思われる。沖縄県としては、将来像IVの達成において海外大学、大学院、もしくは海外での社会経験を積んだ人材の必要性についてはどういった考えを持っているのか。もし重要であると考えらるならば、どのような施策が行えるのか、それについての県の意見を聞かせてください。					
2	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 医師不足と高齢化社会への対応について					
	(質問要旨) 2018年に突入した少子高齢化により沖縄県は、高齢者福祉及び医療などの需要が増加している。高齢者に対する福祉には「後期高齢者医療制度」や介護ケア、高齢者向け住宅など、多岐にわたるものがあるが病院の「医師不足」は離島や僻地という立地もあり、他県と比べ深刻である。これに対し、沖縄県における医師などの医療に従事する人材を育成するための取り組み、対策にはどのようなものがあるか。また、両者の需要が年々高まる中、双方の均衡をどのように保っていくのか、県の意見を聞かせてください。					
3	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					

この質問に関する会議録は41ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	糸満高等学校			
		学 年	2 年	2 年		
10		(ふりがな) 氏 名	もろみざと 諸見里	まさちか 真知	ながみね 長嶺	あおい 葵
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) 沖縄の河川環境について					
	(質問要旨) 私の家の近くにある糸満市の報得川は水が汚く、川に流れ込む排水が泡立っていることもあります。県としてどのような対策をとっているのか教えてください。					
2	(分野名) 子ども未来応援					
	(質問項目) 貧困家庭に対する支援について					
	(質問要旨) 沖縄は貧困家庭が多く、子供が満足に学問に集中できない状況にあります。県としてはこの問題に対しどのような対策を行っているのか教えてください。					
3	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					

この質問に関する会議録は42ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	宮古高等学校			
		学 年	2 年	2 年	1 年	1 年
11	(ふりがな) 氏 名	ずけやま よしゆあ 瑞慶山 義愛	すずき じょーじ 鈴木 ジョージ	にしざと りん 西里 凜	みやくに ののか 宮國 優乃佳	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 公共交通					
	(質問項目) 公共交通の確保について					
	(質問要旨) 宮古島市内に住む高齢者が病院に行くための手段としてタクシーが多く利用されているが、観光客の増加によりタクシーの確保が難しい状況になってきている。この現状に対して、県としての考えを聞かせてください。特に、クルーズ船で観光客が来る際には、ほぼ全てのタクシーが出払ってしまい、病院に行くことのできない高齢者が多い。そのため、高齢者が集まる地域と病院を往復する高齢者に負担のないバリアフリーのバス等を運行させてください。					
2	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) 台風でも停電しないインフラ整備について					
	(質問要旨) 沖縄県では、毎年発生する台風の影響により多くの被害を受けている。特に、山や高い建物がない宮古島では、飛来物が電柱に絡みやすく、台風が来襲するたびに広範囲での停電被害が起こっている。復旧にも多くの時間を要し、島民の生活に大きな影響を及ぼしている。沖縄県の電線の地中化計画はどのようになっているか教えてほしい。また、離島地域の無電柱化を優先することはできないのか。					
3	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) 不法投棄ごみ問題について					
	(質問要旨) 宮古島には処理し切れていない不法投棄ごみが多くあることが問題になっている。過去には、処理したごみの量を偽るニュースもあり、エコアイランドを宣言している宮古島としては解決しなければいけない問題である。現在、実際に回収されている不法投棄ごみの量はどのくらいあるのか調査をお願いしたい。また、その不法投棄ごみを撤去することは可能であるのか県の見解を聞きたい。					

この質問に関する会議録は43ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	南部工業高等学校			
		学 年	2 年	2 年	2 年	2 年
12	(ふりがな) 氏 名	しまぶくる ときや 島袋 暁矢	みやざと りくと 宮里 璃玖斗	なかま じゅうご 仲間 重悟	うざ あいと 宇座 愛翔	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 文化財の保護について					
	(質問要旨) 世界遺産となっている首里城には、多くの国内外の観光客が訪れていました。先週、首里城の正殿など主な建物が焼け落ちてしまいました。再建が必要だと思えます。再建に向けてどう取り組むのか聞かせてください。また、琉潭池を含む首里城周辺の整備計画を今後どうしていくのか、聞かせてください。					
2	(分野名) 総務企画					
	(質問項目) 不発弾対策について					
	(質問要旨) 南部工業高校は、昨年体育館を改築しました。整備している際、野球部が放課後、古い体育館跡地の石拾いをしましたが、そのときに、不発弾が見つかりました。沖縄県はいまだに不発弾が毎年見つかっていますが、県の不発弾撤去の取り組み状況を聞かせてほしい。また、撤去までに後どれくらいの年月がかかるのかを試算されているか、聞かせてください。					
3	(分野名) 公共交通ネットワーク					
	(質問項目) バスについて					
	(質問要旨) 南部は、モノレールもなく交通手段が那覇市に比べると不便であることから、通学にはバスが必要です。南部地区の中学・高校を回る循環バスや、バスの本数をふやす等、バス会社に対しての協力依頼など、県はどのような支援を行っているのか、お聞かせください。					

この質問に関する会議録は45ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	宜野座高等学校			
		学 年	1 年	1 年	1 年	
13		(ふりがな) 氏 名	しまだ ひまり 島田 ひまり	なかし いろは 仲地 彩葉	なかもと ひな 仲本 妃那	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 経済労働					
	(質問項目) 就職率について					
	(質問要旨) 現在、本県では新規高校卒業者と新規大学卒業者の無業者比率が全国1位となっています。私たちは、その原因が無業者に対するサポート体制が不十分なことにありと考 え、サポートする体制を早急に整えるべきだと考えます。このことに関して、御意見をお聞かせください。					
2	(分野名) 経済労働					
	(質問項目) 大人の学び直しの制度について					
	(質問要旨) これからの時代、AI(人工知能)が発達し、大きな社会変動予測されると同時に現在ある仕事の内容も大きく変わり、その中で、今まで身につけた知識や技能では、新しい社会変化や仕事に対応できなくなる状況も想定されます。そうすると、一旦社会に出た後に、新しい知識・技能を身につけるための学び直しが必要になってくると考えま す。そのようなもう一度学び直したいと考える人たちのためにどのような制度、環境整備を考えていらっしゃるのかお聞かせください。					
3	(分野名) 子どもの未来応援					
	(質問項目) 貧困対策について					
	(質問要旨) 沖縄県は離婚率が高いことから、シングルファザー、シングルマザーが多く、それに伴い貧困率も30%近くに上り、全国の2.2倍と高い状況にあります。その影響のため、貧困の中にある子供たちが夢や希望も捨て、高校や大学への進学を諦めてしまうこともあります。その結果、所得の低い仕事にしかつづことができず、このことがさらには将来の子供たちにまで負の連鎖が続くことになりかねません。このような悪循環を脱するために、県としてどのような取り組みを行っているか具体的に教えてください。					

この質問に関する会議録は46ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	開邦高等学校			
		学 年	1 年	1 年	1 年	1 年
14		(ふりがな) 氏 名	あずま こはる 東 小恵	いけま はな 池間 はな	くば ゆうき 久場 悠生	からん たいち 加蘭 太一
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 米軍基地関係					
	(質問項目) 県外における基地問題の認識について					
	(質問要旨) ことしの2月に行われた普天間基地の辺野古移設に関する県民投票では、過半数が反対という結果となりましたが、しかし、現在も移設工事は進行しています。このことについて、私たち県民が興味を持ちかかわっていくのはもちろんのことですが、県外ではどのように捉えられているのでしょうか。一部では「沖縄県の基地負担は少ないのではないか」という意見も聞いたことがあります。基地問題は、沖縄県だけでなく日本が抱える問題であることを県外の人に知ってもらうためにも、私たちは基地問題について全国にもっと発信していくべきだと考えます。					
2	(分野名) 経済労働					
	(質問項目) 最低賃金の向上について					
	(質問要旨) 沖縄県ではことし10月以降、最低賃金が762円から790円へと28円引き上げられます。現在沖縄の最低賃金は全国的にも低水準であり、そのような中、最低賃金が引き上げられるというのはいいことだと思います。しかしながら、全国平均で見てもことしの最低賃金の引き上げ額は28円と同じであり、また今回の賃上げで最低賃金が1000円を超える東京都においても、上げ額は27円と沖縄とほとんど差がありません。このままでは、今存在している最低賃金の差がこれからもなかなか減っていかないと思います。この差を縮めるには、全国のどの地域でも行われていない沖縄の独自の賃上げ対策をとるべきだと思います。そして、沖縄において独自の対策となり得るのは、返還された米軍基地の跡地に大工事を誘致するなどして、跡地を活用した将来性のある産業を育てること等があると考えましたが、そのような沖縄独自の賃上げ対策は何か考えている、または行っているものはありますか。					
3	(分野名) 公共交通ネットワーク					
	(質問項目) 鉄軌道計画について					
	(質問要旨) 鉄軌道計画について、特に恩納村などのリゾート地の近くにおいてトンネルを掘ってつくる地域では、赤土が海に流出する恐れがあります。恩納村は、リゾート地として有名ですが、土砂によってそれらの地域の海が汚染されるおそれがあります。このような問題には、具体的にどのような取り組みをする予定か教えてください。 また、ルートに普天間基地の返還跡地は入っているのですか。どのようにしてこの問題に取り組む予定でしょうか。					

この質問に関する会議録は48ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	沖縄工業高等学校			
		学 年	3 年	3 年	3 年	
15		(ふりがな) 氏 名	やましる ゆうき 山城 勇樹	まざ ゆうき 真座 勇氣	あらかき だいすけ 新垣 大輔	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 公共交通ネットワーク					
	(質問項目) 鉄軌道の建設について					
	(質問要旨) 鉄軌道の建設において、沖縄の観光という観点に着目すると、鉄軌道の整備は観光、生活における最重要課題だと思う。具体的には、海が一望できる鉄道の開発など、新しい観光の仕方を売りにできるのではないだろうかと考えている。それについて県の考えを聞かせてください。					
2	(分野名) 子どもの未来応援					
	(質問項目) 教育について					
	(質問要旨) 沖縄県は全国的に見ても、学力に課題があり、背景には低所得や母子家庭など、社会的に弱い立場の人たちの学習環境が整っていないことが挙げられる。そこで、教育やその他の支援サービスにもっとお金をかけてもよいのではと考える。沖縄県の経済は成長しているが、全国最低の所得の状況で、子供のサポートや母子家庭への支援をもっと手厚くするには、どのような政策を検討しているのか県の考えを聞かせてください。					
3	(分野名) 文教厚生					
	(質問項目) 沖縄の情報教育について					
	(質問要旨) 来年度から小学校で「プログラミング教育」が必修化される。しかし、「機械やネットワーク環境の不足」や「県、市、教育委員会の支援」、「学習、研修時間の不足」、「教育教材の不足」等の多くの課題があると感じる。このような状況の中で、障害のある子供に対する情報教育はどのようにしていくのか県の考えを聞かせてください。					

この質問に関する会議録は50ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学 校 名	沖縄カトリック高等学校		
		学 年	2年	2年	
16		(ふりがな) 氏 名	らざふぉーど らいあん のぼる ラザフォード ライアン ノボル	くし この 久志 香己乃	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等					
1	(分野名) 文教厚生				
	(質問項目) 「こども医療費助成事業」の全県統一について				
	<p>(質問要旨)</p> <p>現在沖縄県では、「こども医療費助成事業」が行われていますが、支援内容が各市町村によって異なっています。例えば支援内容については、自動償還か現物給付なのか、自己負担の有り、なしや、入院か通院か、でも内容が異なっています。対象年齢についても、未就学児から中学生までは全ての市町村で対象とされていますが、高校生までを支援対象としている市町村は限られています。沖縄県の貧困率が高いことを考えると、対象年齢を高校生までとし、さらに制度の内容をすべての市町村で統一したほうがいいのではないかと考えます。沖縄県としてのお考えをお聞かせください。</p>				
2	(分野名) 文教厚生				
	(質問項目) 特別支援教育について				
	<p>(質問要旨)</p> <p>沖縄県では特別支援を必要とする子供たちに十分な支援が行われていないと感じています。また教員や親の負担が大きく、家庭や学校では疲弊も進んでいます。特別支援学校へ医療専門職の配置を行い、障害を持つ子やその親、教員の負担を軽減する必要があると考えます。文部科学省によると特別支援学校において、専門家などの外部人材を配置・活用した教育活動を実践するとありますが、沖縄県としてその取り組みを行っているのか、行っているのであればその内容を教えていただきたいです。</p>				
3	(分野名) 土木環境				
	(質問項目) サンゴを守る取り組みについて				
	<p>(質問要旨)</p> <p>近年、日焼けどめに含まれる成分が、サンゴなどに悪影響を及ぼすとの研究結果が示されています。沖縄と同じくサンゴが貴重な観光資源となっているパラオやハワイなどでは、サンゴに有害な日焼けどめの販売を禁止する法律が制定され、2021年までには施行されます。沖縄のサンゴ礁も、その美しさは世界でも有数のものであり、とても貴重な観光資源となっているのと同時にその保全が必要です。環境保護と観光との両立を考えていくために、沖縄県においてもパラオやハワイのようなサンゴを守る取り組みを行っているのか、行っているのであればその内容を教えていただきたいです。</p>				

この質問に関する会議録は52ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	首里高等学校			
		学年	2年	2年	2年	
17		(ふりがな) 氏名	とくやま けん 渡久山 健	いしかわ ひなの 石川 ひなの	ともよせ えいと 友寄 英翔	
質 問 項 目 ・ 要 旨 等						
1	(分野名) 米軍基地					
	(質問項目) 日米地位協定について					
	(質問要旨) 沖縄県は欧州に職員を派遣するなどして日米地位協定と欧州における米軍と受け入れ国との地位協定を比較する調査を行いました。今後、欧州のみならず、他国の米軍受け入れ国に職員を派遣するなどして比較調査を行う計画はあるのでしょうか。 また、調査を基に日米両政府に改定案などを提言する計画はあるのでしょうか。					
2	(分野名) 土木環境					
	(質問項目) 沖縄県北部の世界自然遺産登録について					
	(質問要旨) 現在、沖縄県北部のヤンバルの森を世界自然遺産に登録しようとする動きがありますが、仮に実現した場合、さらなる観光客増による宿泊施設の増加やごみ問題の増加などが懸念されていますが、それに対処するプランなどは県などで計画されていますか。 また、世界自然遺産登録に向けて、県としてはどのような活動を行う予定ですか。					
3	(分野名) 子どもの未来応援・公共交通ネットワーク					
	(質問項目) バス通学無料化について					
	(質問要旨) 玉城知事が公約に掲げていたバス通学の無料化ですが、この政策はいつごろ実現できるのでしょうか。また、仮に実現した時に、財源はどこから持ってくるのでしょうか。(振興予算からなのか、自主財源からなのか等)					

この質問に関する会議録は53ページを御覧ください。

高校生議会 質問通告書

順位	質問者	学校名	那覇国際高等学校			
		学年	1年	1年	1年	1年
18	(ふりがな) 氏名	くし けんすけ 久志 顕介	あかみね あまら 赤嶺 天良	きんじょう みり 金城 実季	かわむら りさ 川村 梨紗	
質問項目・要旨等						
1	(分野名)	文教厚生				
	(質問項目)	県立図書館の自主学習スペース設置について				
	(質問要旨)	<p>県立図書館のホームページによると県立・市町村立図書館を含めた沖縄県内の図書館は39館あり、そのうち自習スペースを設けている図書館は私たちが調べた範囲で31館ありました。県立図書館はバスターミナルが併設されており、生徒にとって利用しやすい場所にあります。多くの高校生は自主学習を目的として県立図書館を利用したいと考えていますが、県立図書館では持ち込み学習が禁止されており、自主学習スペースも設けられていません。沖縄県生涯学習計画では、「潤いと生きがいのある生涯学習社会の現実」を掲げており、県民の学習ニーズに応える学習機会の充実を推進しています。以上で述べたことより、県立図書館の館内に自主学習スペースを設置してみたいかと思いますが、それについて県の見解を聞かせてください。</p>				
2	(分野名)	公共交通ネットワーク				
	(質問項目)	バス停やバス車内の表示の明瞭化と多言語化について				
	(質問要旨)	<p>内閣府沖縄総合事務局が行った観光ニーズ調査(H29)によると、那覇空港案内所に寄せられた問い合わせ内容は国内線、国外線ともに交通機関に関する問い合わせが8割を超えています。その中でも、バスに関する問い合わせ件数が最も多くなっています。また、沖縄県は観光業が盛んであり、那覇空港国際線ターミナルからもバスが多く出ているため、外国人観光客もホテルまでの移動などにバスを利用している姿をよく見かけます。しかし、バス停やバスの車内の表記は日本語表記のみにとどまっているものが多く、外国人観光客にとっては利用しにくいのではないかと思います。バスをもっと利用しやすくするために、ピクトグラムや、外国人向けのサービスとして多言語での表記などの導入を検討してほしいと考えています。それについて県の意見を聞かせてください。</p>				
3	(分野名)					
	(質問項目)					
	(質問要旨)					

この質問に関する会議録は55ページを御覧ください。

5 令和元年度 沖縄県高校生議会
会議録

沖縄県高校生議会会議録

令和元年11月7日（木）午前10時40分開会

議事日程 第1号

令和元年11月7日（木曜日）

午前10時40分開議

- 第1 沖縄県議会議長挨拶（新里 米吉君）
- 第2 高校生議会議員質問
- 第3 沖縄県知事挨拶（玉城 デニー君）
- 第4 高校生議員代表挨拶（宜野座高等学校）
- 第5 沖縄県議会副議長挨拶（赤嶺 昇君）

本日の会議に付した事件

- 日程第1 沖縄県議会議長挨拶（新里 米吉君）
- 日程第2 高校生議会議員質問
- 1 西原高等学校
 - 2 本部高等学校
 - 3 北谷高等学校
 - 4 豊見城南高等学校
 - 5 八重山高等学校
 - 6 名護高等学校
 - 7 南風原高等学校・高等支援学校
 - 8 那覇高等学校
 - 9 沖縄尚学高等学校
 - 10 糸満高等学校
 - 11 宮古高等学校
 - 12 南部工業高等学校
 - 13 宜野座高等学校
 - 14 開邦高等学校
 - 15 沖縄工業高等学校
 - 16 沖縄カトリック高等学校
 - 17 首里高等学校
 - 18 那覇国際高等学校
- 日程第3 沖縄県知事挨拶（玉城 デニー君）
- 日程第4 高校生議会議員代表挨拶（宜野座高等学校）
- 日程第5 沖縄県議会副議長挨拶（赤嶺 昇君）

出席した高校生議会議員（18校56名）

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 西原高等学校 | 仲宗根 由 人 君 |
| 稲 福 明 李 さん | |
| 知 念 鈴 さん | 3 北谷高等学校 |
| 幸 地 玲 奈 さん | 脇 田 織 衣 さん |
| 渡 慶 次 莉 枝 さん | 伊 禮 果 央 さん |
| | 具 志 堅 七 虹 さん |
| 2 本部高等学校 | 富 村 由 美 さん |
| 大 城 琉 君 | |

- | | |
|---|--|
| 4 豊見城南高等学校
新垣愛里さん | 12 南部工業高等学校
島袋暁矢君
宮里璃玖斗君
仲間重悟君
宇座愛翔君 |
| 5 八重山高等学校
田渕鈴夏さん
袴田颯介君
波照間早希さん | 13 宜野座高等学校
島田ひまりさん
仲地彩葉さん
仲本妃那さん |
| 6 名護高等学校
座間味潤也君
玉城郁弥君
仲里萌子さん
親川光君 | 14 開邦高等学校
東小恵さん
池間はなさん
久場悠生君
加蘭太一君 |
| 7 南風原高等学校・高等支援学校
山田泰正君
新垣向日葵さん
新里楓さん
大城優衣さん | 15 沖縄工業高等学校
山城勇樹君
真座勇気君
新垣大輔君 |
| 8 那覇高等学校
大城史芳子さん
川上莉央さん
又吉晴さん | 16 沖縄カトリック高等学校
ラザフォードライアンノボル君
久志香己乃さん |
| 9 沖縄尚学高等学校
銭意凝さん
國仲元之輔君 | 17 首里高等学校
渡久山健君
石川ひなのさん
友寄英翔君 |
| 10 糸満高等学校
諸見里真知君
長嶺葵さん | 18 那覇国際高等学校
久志顕介君
赤嶺天良さん
金城実李さん
川村梨紗さん |
| 11 宮古高等学校
瑞慶山義愛君
鈴木ジョージ君
西里凜君
宮國優乃佳さん | |

説明のため議場に出席した者の職、氏名

県議会議長新里米吉君	保健医療部長砂川靖君
県議会副議長赤嶺昇君	農林水産部長長嶺豊君
知事事務室長玉城花喜一郎君	商工労働部長嘉数登君
知事公室長池田竹州君	文化観光スポーツ部長新垣健一君
総務部長金城弘昌君	土木建築部長上原国定君
政策調整監長島袋芳敬君	教育長平敷昭人君
企画部長宮城力君	知事公室秘書防災統括監前原正人君
環境部長棚原憲実君	総務部財政統括監金城賢君
子ども生活福祉部長大城玲子君	警察本部警務部長岡本慎一郎君

職務のため議場に出席した事務局職員

事務局 長 平田 善則 君
事務局 次長 勝連 盛博 君
議事課 長 平良 潤 君

議事課 課長補佐 佐久田 隆 君
主 査 嘉陽 孝 君
主 査 宮城 亮 君

○局長（平田善則） 県議会事務局長の平田と申します。

令和元年度沖縄県議会沖縄県高校生議会の開会までの間、私が進行役を務めますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の議長役を務めていただきます、3つの学校を御紹介いたします。

まず最初に、午前の議長校を務めていただきます那覇国際高等学校でございます。

〔那覇国際高等学校 起立 会釈〕

次に、2番目、午後の前半の議長校を務めていただきます西原高等学校でございます。

〔西原高等学校 起立 会釈〕

最後に、午後の後半の議長校を務めていただきます南風原高等学校でございます。

〔南風原高等学校・支援学校 起立 会釈〕

各議長校の皆様には、よろしくお願い申し上げます。

それでは、午前の議長校を務めていただきます那覇国際高等学校の議長は議長席にお着き願います。

〔議長 赤嶺天良さん登壇〕

○議長（赤嶺天良さん） ただいまより令和元年度沖縄県高校生議会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

午前の議長を務めさせていただきます那覇国際高等学校の赤嶺天良と申します。よろしくお願い申し上げます。

日程第1、沖縄県議会議長挨拶を行います。

新里米吉沖縄県議会議長、御登壇願います。

〔沖縄県議会議長 新里米吉君登壇〕

○県議会議長（新里米吉） ハイサイ グスーヨー チューウガナビラ。

沖縄県議会議長の新里米吉でございます。

初めに、首里城正殿等の火災により県民を初め多くの皆様が大変ショックを受けていることと存じます。今後、県と県議会は連携して、早期復元に向けて全力を尽くしてまいります。

燃えている首里城を見て、涙を流している高校生が新聞で報道されました。衝撃の大きさと喪失感の大きさが伝わってきました。しかし、いち早く、多くの高校において首里城復元に向けた募金活動に取り組まれていることに心強く

思っております。引き続き御協力をよろしくお願い申し上げます。

本日、高校生議会を開催するに当たり、御協力いただきました高校生の皆様及び学校関係者の皆様、まことにありがとうございます。

玉城知事初め執行部の皆様には、高校生議会への御理解と御協力をいただきまして感謝申し上げます。

高校生議会は、10年前、沖縄県議会開催100周年記念行事の一環として実施して以来、今回が2回目であります。

高校生議員の皆様におかれましては、きょうのこの体験が沖縄県政及び沖縄県議会の運営等について知識を深めるとともに、多くの高校生を含む若者に政治への参加意識の高まりになればと思っております。本日は、高校生議会議員の質問に対し、沖縄県の行政を担当する方々が直接答弁をされるということで、本会議さながらの場となっており、高校生にとりましては大変貴重な体験になりますので、ぜひ、帰った後に御家族やお友達にこの経験をお伝えしていただければと思います。

皆さんが未来の沖縄を受け継ぐ若人として、元気で活発な質疑をお願いし、挨拶といたします。

イッペー ニフェーデービル。

○議長（赤嶺天良さん） 新里議長、ありがとうございました。

日程第2、高校生議会議員質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

西原高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔西原高等学校一同登壇〕

○西原高等学校一同 西原高校、夢あり我ら（校歌斉唱）。

○稲福 明李さん ハイタイ 西校ヤイビーン。

○知念 鈴さん 高校生議会1番手、西原高校より質問を行います。

○渡慶次 莉枝さん 西原高等学校2年の渡慶次莉枝です。よろしくお願い申し上げます。

質問項目1、個人で子供食堂を行っている方に対しての助成金の援助について質問いたします。

私たちの近所で、個人で子供食堂を行っている方がいてお話を聞くことができました。そこは企業や個人から食材の寄附で材料を賄っていますが、毎回の食堂を開くための安定した財源は得られていないと伺いました。そこで行政が行っている子どもの未来応援に関する助成金はどうのようなものがあるかお聞きします。

○知念 鈴さん 西原高等学校2年の知念鈴です。よろしくお願ひいたします。

次に、質問項目2、子供食堂を支援するに当たっての予算について質問いたします。

子供食堂を行うに当たって助成金の給付額はどれぐらいですか。また、県の予算はどれほどでしょうか。

○幸地 玲奈さん 西原高等学校2年の幸地玲奈です。よろしくお願ひいたします。

次に、質問項目3、子供食堂に関する広報活動について質問いたします。

先ほど紹介した、子供食堂の運営をなさっている方に今の課題を尋ねたところ、子供がなかなか来ない現状があり、広報活動に課題を抱えていると伺いました。県としての子供食堂の広報活動はどうのようなことが行われていますか。

質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（赤嶺天良さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） ハイサイ グスーヨー チューウガナビラ。

沖縄県知事の玉城デニーです。

高校生議会、真摯な答弁に努めてまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

西原高校の御質問にお答えいたします。

個人で子供食堂を行っている方に対しての助成金の援助についての1、子供食堂に対する行政の支援についてお答えいたします。

沖縄県の子供たちの3人に1人が経済的に厳しい生活状況の中において、将来の夢や希望を失ったり、食料を買えない経験をしていることなどが県の調査で明らかとなりました。子供食堂などの子供の居場所は、周囲の人とのつながりを生み、子供たちの学習意欲を高めるなどの効果があります。このため、国・県・市町村が連携し、地域で子供たちのために食事支援や学習支援などの子供の居場所を運営している方を支援しているところです。沖縄県としても、子供たちが地域で生き生きと暮らしていけるよう、子供食堂や子供の居場所を開設し、子供たちのために御尽力いただいている方々をしっかりとサポートしてまいります。

その他の質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（赤嶺天良さん） 子ども生活福祉部長

大城玲子さん。

〔子ども生活福祉部長 大城玲子さん登壇〕

○子ども生活福祉部長（大城玲子さん） おはようございます。

西原高校の御質問の中の2、子供食堂に関する予算についてお答えいたします。

子供の居場所への運営支援については、市町村ごとで、居場所の開所日数や支援内容などによって金額が異なっています。西原町の場合、食事支援などを月1回以上行う自治会やNPO法人、ボランティア団体等が補助金の対象となり、補助金の限度額は年12万円になるとのことです。県においては、子供食堂等の運営を支援する市町村に対し、子供食堂の開設に伴う備品購入費や開設後の修繕にかかる費用など、1件当たり数十万円を交付しているところです。なお、今年度、国の補助金を活用した県と市町村の子供の居場所関連予算は全体で約8億7000万円となっています。

次に3、子供食堂に関する広報活動についてお答えいたします。

現在、沖縄県内に子供の居場所や子供食堂は約170カ所開設されていますが、認知度が低いことも課題の一つであります。居場所の中には、学校と協力してチラシを配布し、地域の子供たちの利用を広く呼びかけているところもあれば、個別支援を行っているため情報を公開していないところもあります。このため、居場所等の周知に当たっては、施設の特性や規模、運営者の意向等を確認する必要がありますので、毎年1回、公表を希望する居場所等の調査を行い、県のホームページで所在地や活動内容などの情報を公表しています。県としましては、公表を希望する居場所等の情報については、市町村や学校と連携し、学校訪問や市町村の支援員等を通じて広めるなど、周知に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 西原高等学校の皆さん、御登壇願ひます。

〔西原高等学校一同登壇〕

○稲福 明李さん 西原高等学校2年の稲福明李です。御答弁ありがとうございました。再質問させていただきます。

先ほどの答弁で広報活動で広く広めていくということで、支援員などや県ホームページ等の例を挙げてくださったのですが、ほかに何か県としてのパンフレットなどそういうものがあれば教えていただきたいと思います。

再質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（赤嶺天良さん） 子ども生活福祉部長大城玲子さん。

〔子ども生活福祉部長 大城玲子さん登壇〕

○子ども生活福祉部長（大城玲子さん） 再質問ありがとうございます。

子供食堂の広報につきましては、先ほど答弁しましたとおりホームページや支援員を通じて今行っているところでございます。そのほかにも、子供の貧困対策については子ども未来県民会議というものを県の知事を中心につくっております。その中で円卓会議などもやっております。そういう県民の理解を得るための場での周知にも努めているところでございます。

○議長（赤嶺天良さん） 西原高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔西原高等学校一同登壇〕

○稲福 明李さん 再質問の御答弁ありがとうございました。

今の沖縄県は、先ほど玉城デニー知事もおっしゃっていたとおり3人に1人が貧困という状態を抱えています。その3人に1人という人に対し、助成を受けて子供食堂及び子供の居場所を運営している場所が170カ所ととても非常に少ない状況が続いております。なので県には支援を提供する場をもっともっとふやしていただき、そしてもっと助成が受けられるような環境を少しずつでも、多くの方々にできるようにしてほしいと思います。

ありがとうございました。

○議長（赤嶺天良さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 質問にお答えいたします。

先ほどありましたように、沖縄県は3人に1人の子供たちが非常に厳しい生活環境の中に置かれています。県としましても、先ほどの子供食堂の支援のほか、さまざまな角度から子供たちの実態調査に即した支援体制をとっていきたいと思います。沖縄県の最重要施策である子供の貧困問題の解決は子供だけの問題ではありません。社会全体で所得の向上や非正規から正規職に転換をさせていくなど、実は大人の環境、雇用環境などを改善していくことも子供の貧困を解消していくことにつながるといふことから、県としては全庁的に取り組みを進めています。どうぞその点なども御理解をいただきながら、さらに県としての施策を進めていきたいと思っておりますので、御協力よろしくお願いたします。

○議長（赤嶺天良さん） 本部高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔本部高等学校一同登壇〕

○仲宗根 由人君 本部高等学校2年の仲宗根由人です。よろしくお願いたします。

質問項目1、海岸への赤土流出対策について質問いたします。

本部町海岸では大雨が降ると赤土流出の被害が出ています。赤土流出防止のためにグリーンベルトを行っている聞いています。本部町では、どのような場所でグリーンベルトを行っておりますか。またそれによって、赤土防止の効果は出ていますか。

○大城 琉君 本部高等学校2年の大城琉です。よろしくお願いたします。

次に、質問項目2、海岸への赤土流出における対策について質問いたします。

まず初めに、こちらのパネル写真をごらんください。（パネルを掲示）これは9月22日に本部港付近で撮影した海岸です。写真向かって右側には国道449号と八重岳に向かう道があります。台風接近前の様子ですが、既に赤土が海岸に流れ液状化している様子がはっきりとわかります。海岸に堆積した赤土は台風などで波が荒れると濁らせる原因となります。海岸に堆積した赤土の処理対応はどのように行っておりますか。また、処理をした赤土はどのようにしているのですか。

質問は以上です。御答弁よろしくお願いたします。

○議長（赤嶺天良さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 本部高校の御質問にお答えいたします。

海岸への赤土流出における対策についての1、本部町でのグリーンベルトの設置状況や赤土流出防止効果についてお答えいたします。

沖縄県では平成25年に策定した沖縄県赤土等流出防止対策基本計画に基づき、赤土流出防止対策に取り組んでおります。本部町の赤土等流出防止営農対策地域協議会においては、平成28年度から30年度までに、赤土流出が多いサトウキビ等の圃場周囲に月桃を植栽するなど、6086メートルのグリーンベルトを設置しております。赤土流出防止対策については、グリーンベルト設置のほか、緑肥作物の種をまく等、営農面の対策を実施しております。これらの取り組みにより、本部大橋周辺を含む本部半島西海域における赤土等の堆積量が減少してきております。その結果、赤土等の堆積指標は、9ランクに分類されるうちの7から6に改善されてきております。沖縄県としましては、引き続き、本部町と連携して、赤土等流出防止対策に取り組んでまいります。

そのほかの御質問につきましては、部局長から答弁させていただきます。

○議長（赤嶺天良さん） 環境部長棚原憲実君。
〔環境部長 棚原憲実君登壇〕

○環境部長（棚原憲実君） 2、海岸に堆積した赤土等の対策についての御質問にお答えしま

す。

県では、陸域において赤土等流出防止対策を実施し、赤土などの海への流出を抑えることがより重要と考え、平成7年に赤土等流出防止条例を制定し、1000平方メートル以上の土地において、掘削や盛土等を行う場合には、沈殿池の設置等の対策を義務化しました。これにより全体の赤土等流出量は、条例施行前と比較して約5割削減しております。海岸に堆積した赤土等のしゅんせつについては、底生生物への影響や海水汚濁が発生するおそれがあることから、専門家の意見を聞くなどした上で、慎重に検討してまいります。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 本部高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔本部高等学校一同登壇〕

○大城 琉君 本部高等学校2年の大城琉です。御答弁ありがとうございます。

再質問させていただきます。先ほどの答弁で赤土流出対策をこれからもしていくとありましたが、予算はどのくらいをめぐりに考えていますか。

再質問は以上です。御答弁よろしくお願いたします。

○議長（赤嶺天良さん） 環境部長棚原憲実君。

〔環境部長 棚原憲実君登壇〕

○環境部長（棚原憲実君） 再質問にお答えします。

予算につきましては、関係部局でそれぞれ対応しておりますので、私どものいる環境部としましては沖縄県全域、離島も含めてモニタリングですね、赤土の汚染の状況とかそういう状況を調査しています。その予算が大体6000万円くらい。6000万円から、全県的な大がかりな調査の場合は9000万円くらいかかたりもします。そのほか農林水産部局においては、勾配修正ですとかグリーンベルトの対策ですとかそういうことをやっておりますが、それぞれの部局において取り組んでおりますので、県全体としては申しわけありませんが、今即答はいたしかねる状況にあります。

以上です。

○議長（赤嶺天良さん） 農林水産部長長嶺豊君。

〔農林水産部長 長嶺 豊君登壇〕

○農林水産部長（長嶺 豊君） 再質問にお答えいたします。

農林水産部では赤土等流出防止営農対策事業を実施しております。今年度の予算につきましては、1億7287万3000円の予算を計上しております。市町村関係協議会補助金として約1億円を助成しているところであります。事業の内

容といたしましては、農業環境コーディネーターを関係市町村に配置をいたしまして赤土防止対策の活動支援を行っております。それから具体的な対策といたしましてグリーンベルトの設置、それから緑肥の種をまくカバーロックの設置等、あと研修会等を実施しております。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 本部高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔本部高等学校一同登壇〕

○大城 琉君 本部高等学校2年の大城琉です。御答弁ありがとうございます。

今後、観光客が増加することが予想されます。本部町ではクルーズ船が運航する計画があるため、赤土対策に取り組んでいただけるようお願いして質問を終えさせていただきます。本日は貴重な経験をさせていただきまして大変ありがとうございました。

○議長（赤嶺天良さん） 北谷高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔北谷高等学校一同登壇〕

○伊禮 果央さん 北谷高等学校1年の伊禮果央です。よろしくお願いたします。

質問項目1、教育費の割合の減少について質問いたします。

沖縄県は高等学校や大学への進学率は年々上がってきていますが、全国との差はまだあり、全国最下位となっています。また、教育費の割合が前回調査と比べ全国順位を落としています。これらの要因と県の対策について意見をお聞かせください。

○富村 由美さん 北谷高等学校1年の富村由美です。よろしくお願いたします。

次に、質問項目2、国際交流事業の機会均等について質問いたします。

沖縄県はビジネスの分野においてアジア・太平洋地域とのネットワーク構築を進めており、将来沖縄で働く私たち高校生には、国際的視野でコミュニケーションや外交する力が求められると考えています。県では中高生を他国に派遣する短期・長期留学プログラムなどがありますが、人数や費用の関係で参加することができない中高生もいます。そこで、海外の人たちを、離島を含む沖縄に幅広く迎え入れ、交流体験をする招致事業などがあると、より多くの中高生たちに機会を与えられるのではないかと考えています。県内への招致事業への取り組みと国際交流事業の機会均等について意見をお聞かせください。

○具志堅 七虹さん 北谷高等学校1年の具志堅七虹です。よろしくお願いたします。

次に、質問項目3、若者の自殺防止対策について質問いたします。

沖縄県の自殺による死亡数は全国平均を上回っており、全国順位も前回調査よりも上がっています。全国調査では、10代の死因の2位は自殺となっており、同年代の人が自殺によって命を落としていることに衝撃を受けました。県や市町村では、相談窓口やウェブサイト、フリーダイヤル、SNS、ゲートキーパーなどの取り組みがなされていますが、どの取り組みも10代の若者の認知度が低いように感じます。これらの自殺防止対策への効果はどのように検証されているのかお聞かせください。

質問は以上です。御答弁よろしくお願いたします。

○議長（赤嶺天良さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 北谷高校の御質問にお答えいたします。

国際交流事業の機会均等についての2、国際交流事業の機会の均等及び招致事業の取り組みについてお答えいたします。

沖縄県では、13歳から19歳の海外県系子弟を沖縄に招致し、県内外の中高生と1週間程度交流を行うウチナージュニアスタディ事業を平成13年度から実施しております。これまでに海外から375名、県内外から397名の合計772名が当該事業に参加しています。本事業については、本島・離島の別なく各学校へ参加者募集に係る通知を行っております。また、外国青年招致事業（JETプログラム）により、4人の国際交流員を米国、中国、韓国、ペルーから任用し、県民の異文化理解促進の交流活動の一環として、離島を含む県内の小・中・高校等へ出前授業を実施しております。沖縄県としましては、今後ともこういった招致事業について、各学校等を通じ周知を図るとともに、出前授業などを活用し、中高生に国際交流へ関心を持っていただけるよう取り組んでまいります。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（赤嶺天良さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） それでは、北谷高校の1、教育費の割合の減少についての御質問で、高校や大学への進学率と教育費の割合についてお答えします。

沖縄県の高校進学率が全国に比べて低い要因については、さまざまな要因が考えられますが、学ぶ意義や楽しさを実感する授業づくり、生徒が自分自身の将来に向け具体的に考え、計画し、行動できるようにするための進路指導の充実に課題があるのではないかと考えております。また、沖縄県の大学進学率が全国に比べて低い要因については、大学を希望する生徒に将来の生

き方、働き方についての目的意識を早い段階で持たせ、大学進学に向けて取り組ませるキャリア教育の充実等に課題があるのではないかと考えております。

高校進学に向けた取り組みとしましては、生徒の主体性を育む授業づくり、生徒の自立に向かうキャリア教育の充実に努めてまいります。

また、大学進学に向けた取り組みとしましては、給付型奨学金制度の創設や進学力グレードアップ推進事業等により、生徒の支援や教師の指導力向上に努めております。

次に、教育費の割合についてですが、御質問の指標は、平成29年版100の指標から見た沖縄県のすがたの中の家計支出に占める教育費の割合で、その数値の増減にはさまざまな要因があるものと考えられます。御参考までに、県教育委員会の予算について申し上げますと、平成29年度は前年度に比べ減額となっておりますが、その後2カ年増額となっており、令和元年度の当初予算額は1691億3000万円で、平成28年度と比べますと約94億3800万円の増となっております。

県教育委員会としましては、今後とも教育・人材育成に関する施策の展開・拡充に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 保健医療部長砂川靖君。

〔保健医療部長 砂川 靖君登壇〕

○保健医療部長（砂川 靖君） それでは北谷高校の若者の自殺防止対策についての御質問の中の本県の自殺防止対策の効果の検証についてお答えします。

県における20歳未満の自殺者数は、平成29年は3名でございましたが、平成30年は0名となっております。また人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺死亡率で見ますと、平成29年は全国の16.5に比べ県内は17.2と高い状況でございましたが、平成30年は全国16.2に比べ県内は14.6と下回っており、県全体において減少しているところであります。

さて、自殺防止対策の効果の検証でございますが、県はこれまで毎年自殺対策連絡協議会等で自殺対策事業の実施及び進捗状況について確認を行って、自殺死亡率の推移を検証しているところでございます。平成30年度には第2次沖縄県自殺総合対策行動計画を策定し、雇用、教育、保健などさまざまな分野で自殺対策につながる施策を実施することとしており、今後は認知度の改善に向けた検討も行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 北谷高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔北谷高等学校一同登壇〕

○脇田 織衣さん 北谷高等学校2年の脇田織衣です。御答弁ありがとうございました。

再質問させていただきます。先ほどの答弁でキャリア教育についてお話しされていましたが、具体的にどのようなことに今後取り組みますか。

再質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（赤嶺天良さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） 再質問にお答えいたします。

キャリア教育について具体的にどのようなことに取り組むかということでございました。キャリア教育といいますとよく思い浮かべるのは職場体験とかですね、そういうものかと思いますが、実はキャリア教育といいますのは日々学んでいることと自分の将来についてつなぎながら、将来を見据えながら社会とのつながり等を意識しながら学ぶということが大事であります。そういうことで今教育委員会の中では自分を見詰めながら将来の目標、夢等を意識しながら頑張っていくということやキャリアパスポートというものをつくって、日々それを意識しながら頑張っていくようにしようというふうに、それを進めるということで考えております。今、いろいろ調査も踏まえながら、また具体的に各学校で取り組んでいただこうと思っておりますけど、やはり日々勉強、スポーツもそうですけど、いろいろなことに頑張るためには自分がどういうふうになりたいかという目標を明確にしたほうが頑張る力が湧いてくるだろうというふうに考えております。よく頑張っているスポーツ選手でも具体的に金メダルをとりたいたか——例えば大谷翔平投手なんかは、81の升をつくってですね、真ん中にプロから何球団から指名1位で採るといふ目標のために、スピード160キロ出すとか、そのためには体の柔軟性を保つとかいろんな自分で目標を立てて、そのために何をしたらいいかということを考えてやっているわけですね。そういうことでいろいろな、全ての生徒が自分の将来を、目標を明確に持ってじゃあそのためにはどんなことを頑張ればいいのか。これは勉強だけではなくていろいろなことについてですね、そういう姿勢を持って頑張ってくださいというようなことをキャリア教育として考えているところです。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 豊見城南高等学校新垣愛里さん、御登壇願ひます。

〔豊見城南高等学校新垣愛里さん登壇〕

○新垣 愛里さん 豊見城南高校3年の新垣愛里です。よろしくお願ひいたします。

質問項目1、文化遺産としての沖縄空手の普及・振興について質問いたします。

2020年東京オリンピックの公式種目決定などを受け、注目が高まってきている空手ですが、発祥の地である沖縄県の果たす役割も大きくなっていくと思われまふ。例えば、空手を文化観光資源の一つと位置づけ、国内外の多くの愛好家を迎える際の受け入れ体制やユネスコ文化遺産登録に向けた関係諸団体との連携、広報活動等空手振興に向けた沖縄県の取り組み状況を伺います。

また、2017年に開館した沖縄空手会館の活動状況や課題への取り組みについても伺います。

さらに、施設等のハード面は整備され、空手発祥の地にふさわしい研さんの場として、今後の発展が期待される場所ですが、課題となる入館者数の増加をどのように図っていくのか、県民の財産としてどのように保存・発展させていくのか、県の見解を伺います。

質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（赤嶺天良さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー） 豊見城南高校の御質問にお答えいたします。

文化遺産としての沖縄空手の普及・振興についての1、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取り組み状況についてお答えいたします。

沖縄県では、沖縄の大切な伝統文化である空手を次世代に正しく受け継いでいくとともに、空手発祥の地・沖縄を国内外に広く発信するため、ユネスコ無形文化遺産への登録を推進しております。このため、空手関係団体等との連携のもと、空手の日記念演武祭や昨年8月の第1回沖縄空手国際大会の開催等を通じて、県民機運の醸成に取り組んでまいりました。ことし9月には、空手関係者、有識者、行政関係者によるユネスコ無形文化遺産登録推進検討委員会と流派別の流派研究連絡会を設置し、沖縄空手の神髄である各流派の型や歴史に関する学術研究を深め、登録に必要な内容の検討を進めているところです。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁させていただきます。

○議長（赤嶺天良さん） 文化観光スポーツ部長新垣健一君。

〔文化観光スポーツ部長 新垣健一君登壇〕

○文化観光スポーツ部長（新垣健一君） それでは豊見城南高校の御質問で1、文化施設としての沖縄空手の普及・振興についての御質問のうち、空手振興に向けた取り組み状況についてお答えをいたします。

県では、沖縄空手を保存・継承・発展させる

ため、目指すべき将来像を描く沖縄空手振興ビジョンとその具体的な工程等となる沖縄空手振興ビジョンロードマップに基づき、施策を展開しております。具体的には、国内外の空手愛好家からの問い合わせに多言語で対応する沖縄空手案内センターの設置や空手の日記念演武祭、国際セミナーの開催、国内外への指導者派遣事業等を実施しているところです。

同じく、沖縄空手会館の現状と課題についてお答えをいたします。

昨年8月に開催した第1回沖縄空手国際大会等の大型催事や施設の周知が進んだこともあり、一般県民を含む平成30年度の道場施設利用者数は10万6160人で前年度比208.1%と増加しております。一方、同年度の資料室観覧者数は1万3980人で前年度比86.3%と減少しており、課題となっております。県としましては、沖縄空手の保存・継承・発展を図るため策定した沖縄空手振興ビジョン及び同ロードマップに基づき、沖縄空手会館を拠点に空手発祥の地・沖縄をSNS等を活用して強力に発信しつつ、世界中の空手愛好家の受け入れ体制の強化と交流拡大を図ってまいります。

以上でございます。

○議長（赤嶺天良さん） 豊見城南高等学校新垣愛里さん、御登壇願います。

〔豊見城南高等学校新垣愛里さん登壇〕

○新垣 愛里さん 豊見城南高等学校3年の新垣愛里です。御答弁ありがとうございます。今後とも、沖縄県が空手魅力の発信の先頭に立ち、県民とともに取り組まれていかれることに御期待申し上げ、私からの質問を終わります。

○議長（赤嶺天良さん） 休憩いたします。

午後の会議は、午後1時から再開いたします。

午前11時37分休憩

午後1時0分再開

○議長（稲福明李さん） 再開いたします。

午後の前半の議長を務めさせていただきます西原高等学校の稲福明李と申します。よろしくお願いいたします。

午前に引き続き、質問を行います。

八重山高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔八重山高等学校一同登壇〕

○田淵 鈴夏さん 八重山高等学校2年の田淵鈴夏です。

○波照間 早希さん 波照間早希です。よろしくお願いいたします。

○田淵 鈴夏さん まずは質問項目1、離島における派遣費補助について質問いたします。

沖縄21世紀ビジョン基本計画及び同実施計画に、克服すべき沖縄の固有課題として、離島の条件不利性克服が挙げられていますが、離島に住む私たちの現状として、部活動に所属してい

る生徒は、市からの補助金があるとはいえ、島外への遠征費や派遣費の負担が重く、費用の捻出に苦心している生徒も少なくありません。

○波照間 早希さん 例えば、本校の野球部の場合、県大会だけでも年間15万円かかり、合宿などの遠征費を含めると年間30万円以上かかります。そのため野球部では、派遣費の負担を少しでも和らげるため、全員で集団バイトをする期間がありますが、貴重な練習時間を削っても、1大会分の派遣費ほどにしかありません。ほかの部活でも、派遣費を支払うためにアルバイトをし、勉強がおろそかになってしまう生徒や、家庭の経済的事情により退部してしまう生徒もいます。

○田淵 鈴夏さん 市からの補助は県内派遣で1人当たり5000円から8000円ありますが、それでも飛行機代や移動費、宿泊費やそれに伴う食費などを加味すると、本島で行われる大会に参加する本島の高校の負担額と比べ、非常に大きな負担となっております。離島の生徒でも金銭面で気兼ねすることなく、日ごろの成果を発揮できる環境に近づけるために、かかる負担を少しでも減らす必要があると切に感じています。県からの補助は可能なのでしょうか。

○袴田 颯介君 八重山高校2年の袴田颯介です。よろしくお願いいたします。

次に、観光客のマナーについて質問いたします。沖縄県は、観光客の増加を推進していますが、それに伴って発生する観光客によるポイ捨てなどのマナーの悪さについて、県としてはどのような対策をお考えですか。

質問は以上です。

御答弁よろしくお願いいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。

〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 八重山高校の御質問にお答えいたします。

観光客のマナーについての2、県としての対策、観光客のマナー啓発に係る取り組みについてお答えいたします。

沖縄県では、住んでよし、訪れてよし、受け入れてよしの観光地を目指しており、観光客、観光事業者、そして県民それぞれの満足度を高めることが必要と認識しております。しかしながら、近年、県民生活や自然環境に影響を与える諸問題が生じつつあり、県民や観光客の満足度が低下しないよう対応を進めているところです。この諸問題には、観光客のごみ捨ても含まれており、沖縄県では、外国人観光客向けに、日常的なマナーや沖縄の風習などについて、ウェブサイトにおいて多言語で発信したり、ホテルなどの観光施設でマナー啓発ブックを配布するなど、マナーの周知、啓発に取り組んでいる

ところでは、なおこれからは、県も取り組んでまいりますSDGsなどの理念や計画などと合わせるような啓発も進めていくことが大切だろうと思っています。

沖縄県としましては、観光資源の適切な活用と保全の両立を目指し、今後とも、情報を収集、整理し、地域と連携を図りつつ、対応を検討していきたいと思っております。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（稲福明李さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） それでは八重山高校の御質問にお答えします。

1の離島における派遣費補助についてお答えいたします。

県教育委員会では、本島で開催される県大会に参加する離島の高校生、また、九州大会や全国大会に参加する高校生に対して、高等学校体育連盟、高等学校文化連盟を通して派遣費を助成しております。今年度は、離島から本島への派遣費の助成を増額したところであります。今後とも、派遣費の助成を継続するとともに、離島地域の生徒の負担軽減が図られるよう努めてまいります。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 八重山高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔八重山高等学校一同登壇〕

○袴田 颯介君 八重山高等学校2年の袴田颯介です。御答弁ありがとうございました。

本日は貴重な経験をさせていただきまして、大変ありがとうございました。

○議長（稲福明李さん） 名護高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔名護高等学校一同登壇〕

○玉城 郁弥君 名護高等学校2年の玉城郁弥です。よろしくお願いたします。

質問項目1、鉄軌道の建設について質問いたします。

2年前に実施されたアンケートで鉄軌道のルートについて検討されたと思いますが、現在はどうに進んでいるのでしょうか。鉄軌道の建設が実現すれば北部地域の発展につながると思質問します。

○親川 光君 名護高校2年の親川光です。よろしくお願いたします。

次に、質問項目2、通学で利用するバスについて質問いたします。

名護高校は広範囲の地域から生徒が通学しています。通学の際にバスを利用する生徒も多いですが、地域によってはバスの本数が少なくルートも学校の前を通らないなどの状況がありま

す。バスの本数をふやしたり、ルートの見直しについては、人材不足などの課題もあると思いますが、公共交通であるバスを充実させる取り組みは現在どのようなものがありますか。

○座間味 潤也君 名護高校3年の座間味潤也です。よろしくお願いたします。

次に、質問項目3、ごみ問題及び環境保護について質問いたします。

北部地域の海で、大量のペットボトルやプラスチックなどのごみが捨てられていたり、漂着していたりする場所があります。地域で清掃活動などを行っていても難しい状況があります。観光産業が伸びている本県では環境保護の対策も重要になると思いますが、環境保護についてどのような取り組みが行われていますか。

質問は以上です。

御答弁よろしくお願いたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 名護高校の御質問にお答えいたします。

鉄軌道の建設についての1、鉄軌道導入の取り組み状況についてお答えいたします。

沖縄県では、那覇と名護を1時間で結ぶ鉄軌道の導入に向け、平成26年10月から沖縄鉄軌道の構想段階における計画案づくりに取り組みしました。計画案づくりにおいては、県内の高校・専門学校などの学生の皆さん約2万5000人を含む、延べ6万2000人の方々から意見が寄せられました。これら意見なども踏まえながら検討を行い、平成30年5月に那覇市から浦添市、宜野湾市、北谷町、沖縄市、うるま市、恩納村を經由し、名護市を結ぶおおむねのルート案を取りまとめた沖縄鉄軌道の構想段階における計画書を策定したところです。現在は、鉄軌道の早期導入に向けて、国から示されている費用対効果や採算性などの課題について検討を行っているところであります。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（稲福明李さん） 企画部長宮城 力君。
〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目2、通学で利用するバス、そのバスを充実させる取り組みについてお答えいたします。

県は、段差のないノンステップバスやICカード乗車券OKICAの導入など、バス事業者が行う利便性向上に関する取り組みに対し補助を行ってきました。また、那覇市から沖縄市までの基幹区間を走行する、速度が速くて本数が多く定時性が高い基幹バスと、基幹区間内の主要拠点から、県内各地へアクセスする支線バスにバス路線を再編するため、バス事業者と連携

し取り組んでおります。この取り組みにより、基幹区間を走行するバスの効率化を図り、限られた車両や運転手等を支線区間に投入することにより、北部地域を含めた県内各地域の利便性向上を目指してまいります。また、県は、高齢の方や障害のある方など、いわゆる交通弱者の日常生活の足を確保するため、運行収入だけでは維持が困難な北部地域を含む39のバス路線に対し、国、市町村と連携して補助を行うことにより、バス路線の確保維持に努めております。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 環境部長棚原憲実君。
〔環境部長 棚原憲実君登壇〕

○環境部長（棚原憲実君） 質問項目3、ごみに関する事、環境保護についての御質問に関連して、本件の海岸漂着ごみ対策についてお答えします。

プラスチックごみによる海洋汚染は世界的な問題となっており、ことし開催されたG7サミットやG20サミットで排出抑制に向けた話し合いが行われました。また、国連で採択された持続可能な開発目標いわゆるSDGsの17ある目標のうち14番目の海洋と海洋資源の保全としてプラスチックごみによる海洋汚染の対策が位置づけられております。そのため県では、SDGsの理念に沿って、国の補助金を活用し、プラスチックごみによる海域生態系への影響等を調査するとともに、市町村等と連携し海岸漂着ごみの回収、処理に取り組んでおります。引き続き、回収、処理を強化するとともに、海岸漂着ごみに関する影響調査や発生を減らすための環境教育等を推進してまいります。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 名護高等学校の皆さん、御登壇願います。
〔名護高等学校一同登壇〕

○仲里 萌子さん 名護高等学校2年の仲里萌子です。御答弁ありがとうございました。

本日は貴重な経験をさせていただきまして、大変ありがとうございました。

○議長（稲福明李さん） 南風原高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔南風原高等学校・支援学校一同登壇〕

○山田 泰正君 南風原高等学校2年の山田泰正です。よろしくお願いいたします。

質問項目1、バスの運行について質問いたします。

私たちは、南風原高等学校、南風原高等支援学校で沖縄県に対する要望についてのアンケートを実施しました。その結果、バスの運行に関しての要望が多くありました。その中でも、運賃の高さ、乗りかえの不便さ、本数の少なさなどの問題点が挙がりました。これらの問題につ

いて、県としてどのような解決策があるとお考えかを教えてください。

○新里 楓さん 南風原高校1年の新里楓です。よろしくお願いいたします。

次に、質問項目2、歩道の設備について質問いたします。

私たち学生は、歩道を日常的に利用しています。しかし、大きな道路から一歩細い道に入ると、街灯が少ない暗い道や道路の幅が狭く、その上草木が生い茂っている道が多くあります。アルバイトや部活の帰宅途中に不審者に声をかけられたりなど危険な目に遭うことがあります。また、走行中の車から歩行者が見えづらいため事故が起こったケースもあります。そのことから、幅が狭く暗い道路にも街灯の設置を検討してほしいと考えています。それについて、県の御意見を伺います。

○新垣 向日葵さん 南風原高校2年の新垣向日葵です。よろしくお願いいたします。

次に、質問項目3、観光と環境について質問いたします。

沖縄県は現在県外からの観光収入を多く得ています。観光の大きな一つの目的として沖縄県の自然環境が挙げられます。その一方で、ホテルなどの建造物を自然を壊してまでたくさんつくってしまっていることについて、沖縄県としてどう考えていますか。

質問は以上です。

御答弁よろしくお願いいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 南風原高校・支援学校の御質問にお答えいたします。観光と環境についての3、ホテルなどの建設と自然環境とのかかわりについてお答えいたします。

観光は、沖縄県経済の成長を牽引するリーディング産業であり、世界的にも広く認知され、評価される世界水準の観光リゾート地の形成のためには、宿泊施設などの観光関連施設が一定程度集積することも必要だと考えています。一方で、行ってみたいと思う観光地であるためには、豊かな自然環境や地域の文化といった本来の沖縄の魅力を守りながら、地域の景観に配慮するなど、観光地のマネジメントが大切になってまいります。沖縄ならではの観光地を目指すのであれば、よそのまねをするのではなく、沖縄だからこそ行きたいというそういう観光地の形成を目指していくべきだというふうに考えています。

このため沖縄県では、自然環境や地域文化に配慮し、国連の目標であるSDGsに根差した持続的な観光振興、持続可能な開発に基づく観光振興などが実現されるよう、県内関係団体、

事業者や県民の皆さんへの普及啓発活動などに取り組んでいきたいと考えております。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁させていただきます。

○議長（稲福明李さん） 企画部長宮城 力君。
〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目1、バスの運行、バスの問題点に関する県の解決策についてお答えいたします。

バス運賃の低減については、子ども生活福祉部において沖縄県ひとり親高校生等通学サポート実証事業が行われ、ひとり親家庭における通学費の負担軽減が図られているほか、県教育委員会において、中高生のバス通学費支援に向け、現在、通学実態調査が行われているところです。また県は、那覇市から沖縄市までの基幹区間を走行する、速度が速くて本数が多く定時性が高い基幹バスと、基幹区間内に主要拠点から県内各地へアクセスする支線バスにバス路線を再編するため、バス事業者と連携し取り組んでおります。この取り組みにより、基幹区間を走行するバスの効率化を図り、限られた車両や運転手等を支線区間に投入することにより、県内各地域の利便性向上を目指してまいります。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） それでは、南風原高校・南風原支援学校の御質問で、2の歩道の整備・設備についての御質問で、通学路等における街灯の設置についてお答えいたします。

県教育委員会では、交通安全教室等を通して通学路等における児童生徒の危険回避能力の育成を図るとともに、不審者情報に関しては市町村教育委員会や警察などと連携し、児童生徒の安全・安心の確保に努めております。道路に設置されている照明には、交通事故防止のため、道路管理者である国、県、市町村などが、交差点などの危険な箇所に設置する道路照明と、防犯を目的に市町村や自治会などが通学路等の生活道路に設置する防犯灯などがあります。なお、学校側からの要望により、街灯が設置された事例もあることから、学校との意見交換を通して取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 南風原高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔南風原高等学校・支援学校一同登壇〕

○山田 泰正君 南風原高等学校2年の山田泰正です。御答弁ありがとうございました。

本日は貴重な経験をさせていただき、大変ありがとうございました。

○議長（稲福明李さん） 那覇高等学校の皆さん、御登壇願います。

ん、御登壇願います。

〔那覇高等学校一同登壇〕

○川上 莉央さん 那覇高等学校2年の川上莉央です。よろしくお願ひいたします。

質問項目1、歩行者信号の青点灯時間について質問いたします。

横断歩道の信号機の青点灯の長さは毎秒1メートルで計算されていますが、高齢者や何らかの運動障害を持つ人々にとって、それは酷なものだと考えます。また、時間内で渡り切らなければならないという焦りから転倒してしまう可能性もあります。近年、青延長用押しボタンつき信号機が普及してきていますが、沖縄県は整備がまだ不十分です。よって、青延長用押しボタンつき信号機をふやすべきではないだろうかと考えています。それについて、県の考えをお聞かせください。

○又吉 晴さん 那覇高等学校2年の又吉晴です。よろしくお願ひいたします。

次に、質問項目2、高齢者のバス料金について質問いたします。

調べてみると2020年には、沖縄の人口の4人に1人が高齢者であるといひます。また、最近では高齢者による交通事故が多発しており、高齢者に対して迅速な免許返納を求める声が多くなっています。しかし、バスは料金が高いということから返納したがない人が多いと聞いています。そこで、高齢者のバスの運賃を割引するのは可能でしょうか。それについて、県の考えをお聞かせください。

○大城 史芳子さん 那覇高等学校2年の大城史芳子です。よろしくお願ひいたします。

次に、質問項目3、高齢者のバス利用について質問いたします。

免許返納をためらう理由はそのほかに、バスは時刻表が見つらいことや、行き先、時間表の見方がわからないことが挙げられると思います。また、高齢者はスマートフォンを持っている人が少ないため、調べることもできません。よって、那覇バスターミナルにある路線バス乗りかえ案内やデジタル時刻表をもっと普及すべきではないでしょうか。それについて、県の考えをお聞かせください。

質問は以上です。

御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 那覇高校の御質問にお答えいたします。

高齢者のバス利用についての質問で、那覇バスターミナルにある路線バス乗りかえ案内や、デジタル時刻表をもっと普及すべきではないかなど、路線バスの乗りかえ案内等の普及につい

てお答えいたします。

沖縄県では、バス停や行き先表示を改善するため、バス停標識のサイズを拡大し、経路別に色分けした系統図や時刻表を表示したバス停標識の導入や——これは51基ですが、また、バスの行き先方向を色で区分する行き先電光表示機の導入など——これは241台ですが、バス事業者が行う取り組みを支援してまいりました。また、国においても、農林中金前とライカム周辺の比嘉西原の2カ所に高機能バス停を設置しています。県としては引き続き、バス事業者と連携し、お年寄りも利用しやすいようバスの利便性の向上に努めてまいります。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁させていただきます。

○議長（稲福明李さん） 警察本部警務部長岡本慎一郎君。

〔警察本部警務部長 岡本慎一郎君登壇〕

○警察本部警務部長（岡本慎一郎君） 質問項目の1、歩行者信号の青点灯時間についての中の、青延長用押ボタンつき信号機の拡充についてお答えいたします。

青延長用押しボタンつき信号機、すなわち高齢者等感応式信号機は、白い押しボタン箱のボタンを押すことにより、歩行者用青信号の時間が通常より約30%長くなる信号機でありまして、県内には本年10月末現在で54基が整備されております。成人の歩行速度は平均で1秒間におおむね1メートル進むと考えられておりますが、県警察におきましては、歩行者用青信号の時間を設定するに当たっては、横断歩道の実際の長ささらに1.5を掛けて時間を算出することとしておりまして、これにより横断歩行者の安全面により配慮した時間を確保することを基本としております。その上で、歩行者用青信号の時間延長要望があった場合は、その必要性や延長した場合の他の交通に対する影響などを勘案した上で、個別に延長設定を行っているところでございます。県警察といたしましても、高齢者や障害者等のいわゆる交通弱者のための取り組みとして、高齢者等感応式信号機の必要性をしっかりと認識しておりますので、高齢者施設や、障害者施設の付近など、そのニーズ、需要に応じた整備を今後とも進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 企画部長宮城 力君。

〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目2、高齢者のバス料金、高齢者のバス運賃割引についてお答えいたします。沖縄県警察本部において、高齢者が運転免許証を返納しやすくするための環境づくりとして、運転免許証の返納時に取得

できる運転経歴証明書を提示することにより受けられる優遇措置の拡大が推進されております。本制度の沖縄本島における現時点の優遇措置は、路線バス4社及び沖縄都市モノレールで通常運賃より5割引、タクシーで1割引となっております。このほか、那覇バスにおいて、沖縄県内在住の満65歳以上の方は、1カ月6000円で、那覇バスの那覇市内区間全線が1カ月乗り放題となる割引制度が実施されるなど、一部の事業者においても高齢者に対する割引が実施されているところです。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 那覇高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔那覇高等学校一同登壇〕

○川上 莉央さん 那覇高等学校2年の川上莉央です。御答弁ありがとうございました。

高齢者が住みやすい社会は、私たち高校生も含めて全ての人々が住みやすい社会でもありません。今後も沖縄の人々の暮らしがさらによくなるような取り組みをよろしくお願いします。本日は貴重な経験をさせていただきまして、ありがとうございました。

○議長（稲福明李さん） 沖縄尚学高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔沖縄尚学高等学校一同登壇〕

○國仲元之輔君 沖縄尚学高等学校2年の國仲元之輔です。よろしくお願いたします。

質問項目1、海外経験を豊富に持つ人材の重要性について質問いたします。

沖縄21世紀ビジョンの将来像IV、世界に開かれた交流と共生の島の達成のため、沖縄県では国際性と個性の涵養と題し、グローバルリーダー育成海外短期研修を初めとする短期留学プログラムを実施してきました。しかし、これらのプログラムで可能な留学期間は、長くても10カ月など長期的かつ豊富な海外経験を積めるものであるとは必ずしも言えないと思われまます。沖縄県としては、将来像IVの達成において海外大学、大学院、もしくは海外での社会経験を積んだ人材の必要性については、どういった考えを持っているのでしょうか。もし重要であると考えれば、どのような施策が行えるのか、それについての県の意見を聞かせていただきたいです。

○錢 意凝さん 沖縄尚学高等学校1年の錢意凝です。よろしくお願いたします。

次に質問項目2、医師不足と高齢化社会への対応について質問いたします。

2018年に突入した少子高齢化により、沖縄県は高齢者福祉及び医療などの需要が増加しています。高齢者に対する福祉には、後期高齢者医療制度や介護ケア、高齢者向け住宅など、多岐

にわたるものがありますが、病院の医師不足は離島や僻地という立地もあり、他県と比べ深刻です。これに対し、沖縄県における、医師などの医療に従事する人材の育成のための取り組みなどの対策にはどのようなものがあるのでしょうか。また、両者の需要が年々高まる中、双方の均衡をどのように保っていくのか、県の意見を聞かせていただきたいです。

質問は以上です。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 沖縄尚学高校の御質問にお答えします。

海外経験を豊富に持つ人材の重要性についての、海外での社会経験を積んだ人材育成についてお答えします。

世界に開かれた交流と共生の島を目指し、グローバルに活躍できる人材を育成することは、極めて重要であると考えております。沖縄県では、21世紀の万国津梁にふさわしい国際性と個性の涵養を図るため、平成24年度から平成30年度まで、海外短期研修事業で1470名及び、長期留学事業で644名を海外に派遣しています。平成30年度は、短期研修事業で215名を欧米、中国等に派遣し、長期留学事業では85名を欧米、アジア、南米諸国へ1年間派遣しています。本事業は、広く世界に目を向けるためのきっかけづくりも一つの目的としており、派遣された方の中には海外大学への留学や大学卒業後はパイロット、総領事館職員など、国際的に活躍している方もいます。また、大学生等を中心に海外企業でのインターンシップ等を実施し、グローバルな職業観の育成を図るとともに、社会人等についてはハワイ大学の大学院等への留学支援を行っています。なお、期間の延長等さらなる支援の拡充については今後研究していきたいと考えております。

その他の質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（稲福明李さん） 保健医療部長砂川靖君。

〔保健医療部長 砂川 靖君登壇〕

○保健医療部長（砂川 靖君） それでは、沖縄尚学高校の医師不足と高齢化社会への対応についての御質問にお答えします。

県は、平成30年度、医師を確保するため、総額約17億円で20の事業を実施し、延べ138名の医師を確保したところであり、そのうち122名は北部地域及び離島で勤務する医師となっております。具体的には、自治医科大学、琉球大学医学部地域枠及び県立病院において離島及び僻地に派遣する医師を養成するほか、県内外の大

学病院などから、短期的に医師の派遣を行うなど、離島及び僻地で勤務する医師の確保に取り組んでいるところであります。本県の医師数は着実にふえておりますが、県としましては、引き続き高齢化に伴う県内の医療需要の動向などを踏まえつつ、医師の養成及び確保を図っていきたくて考えております。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 沖縄尚学高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔沖縄尚学高等学校一同登壇〕

○國仲元之輔君 沖縄尚学高等学校2年の國仲元之輔です。御答弁ありがとうございます。

再質問をさせていただきます。

質問項目1、海外経験を豊富に持つ人材の重要性についての再質問なのですが、先ほど大学生にはインターンシップ、また社会人に対してはハワイ大学などへの留学プログラムなどとおっしゃっていましたが、例えば大学進学を機に海外に留学を希望する生徒に対しての、奨学金等といった支援のプログラムなどについてはどういった考えをお持ちでいらっしゃるでしょうか。よろしく願いいたします。

再質問は以上です。

○議長（稲福明李さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） 再質問にお答えします。

大学生の奨学金ということでございますが、現在の奨学金は確かに国内の奨学金になっております。実は各大学には大学独自の留学の奨学金でありますとか、日本学生支援機構の奨学金というのがございます。今県独自で新たな海外留学のための奨学金というのは具体的にはございません。御質問の國仲議員の海外に広く目を向けて頑張りたいという気持ちは非常に熱いものがあると思いますが、これについては、県としては今後どのようなことができるのかというのは、知事からも御答弁ありましたけど、さまざまな観点から、ほかの事業との兼ね合いも見ながら、研究してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（稲福明李さん） 沖縄尚学高等学校の皆さん、再質問はありますか。

〔「再質問なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（稲福明李さん） 糸満高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔糸満高等学校一同登壇〕

○諸見里真知君 糸満高等学校2年の諸見里真知です。よろしく願いいたします。

質問項目1、沖縄の河川環境について質問いたします。

沖縄の海は独特の生態系を持っており、サン

ゴ礁の広がる海は観光資源になっています。それに伴って海に直接水が流入する河川的环境も沖縄の資源であると考えられます。しかし、私の住む糸満市にある報得川は、川の水が泡立つほど水が汚れています。これでは、沖縄の海へ悪影響があると考えられます。県として河川的环境について、どのような対策を行っているのか教えてください。

○長嶺 葵さん 糸満高等学校2年の長嶺葵です。よろしくお願ひします。

次に、質問項目2の貧困家庭に対する支援についての質問です。

沖縄の大きな問題として子供の貧困が挙げられます。沖縄は貧困家庭が多く、そのため子供たちが満足に学問に集中できない状況があります。また、私は現在高校2年生で進路学習を行っていますが、多くの生徒が進学費用などの問題を抱え、希望進路を諦め、進路変更を余儀なくされる生徒もいます。県としてはこのような問題に対し、どのような対策を行っているのか教えてください。

質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 糸満高校の御質問にお答えいたします。

貧困家庭に対する学習支援についてお答えいたします。経済的な要因で学習環境が整わず、学習のおくれから不登校になったり、学校を退学したり、あるいは進学を諦めたりなど就学が不十分なまま社会に出ることによって、結果的に本人も経済的に困窮するといった貧困の連鎖を、何としても絶たなければならないと私は考えております。このため沖縄県では平成24年度より、低所得世帯の児童生徒に対して無料塾による学習支援を実施しています。現在小中学生教室が県内17町村21教室、高校生教室が10市町11教室、合計で25の市町村で32教室、約1000人の児童生徒を支援しているところです。経済的な事情にかかわらず、全ての子供たちが夢や希望を持って成長していける社会を実現するため、無料塾を初め、子供の居場所の設置や子育て環境の整備など、総合的な子供の貧困対策に、しっかりと取り組んでまいります。

その他の質問につきましては、部局長より答弁をさせていただきます。

○議長（稲福明李さん） 環境部長棚原憲美君。
〔環境部長 棚原憲美君登壇〕

○環境部長（棚原憲美君） 質問項目1、沖縄の河川環境についてに関連した報得川の排水対策についてお答えします。

河川の浄化には、生活排水や事業所排水の適

切な対策が必要です。そのため、糸満市は平成10年に糸満市水環境保全・生活排水対策推進計画を策定し、小型合併処理浄化槽や公共下水道の整備等の対策を進めております。また、県では、河川・海域で全県的な監視を行っており、報得川でも3地点で水質の常時監視を行うとともに、畜舎などからの不適切な排水が行われないうようなパトロールを実施しています。こうした取り組みにより、報得川では河川の汚濁度を示す指標であるBOD値が、20年前の4分の1以下にまで減少しております。

県としましては、糸満市と連携して引き続き報得川的环境浄化に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 糸満高等学校の皆さん、御登壇願ひします。

〔糸満高等学校一同登壇〕

○長嶺 葵さん 糸満高等学校の長嶺葵です。土木環境や子供の未来など、私たちの身の回りにある事柄についてこれからも目を向け、関心を高めていきたいと思ひます。

今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

○議長（稲福明李さん） 宮古高等学校の皆さん、御登壇願ひします。

〔宮古高等学校一同登壇〕

○西里 凜さん 宮古高等学校1年の西里凜です。よろしくお願ひします。

質問項目1、宮古島市内に住む高齢者の病院までの送迎手段の確保について質問いたします。

宮古島市に住む高齢者が病院に行くための手段としてタクシーが多く利用されていますが、観光客の増加によりタクシーの確保が難しい状況になっています。例として、ほぼ毎日クルーズ船が来港したときは、宮古島のタクシー約200台がほぼ全て出払うため高齢者の移動手段がなくなり、病院に行けない高齢者がふえている現状があります。市の取り組みとして65歳以上で協力的な親族がいない方に、年間36枚から72枚のタクシーの割引チケットが配布されていますが、タクシーが出払ってしまっているために、この問題は解決できていません。そのため病院と高齢者が集まる地域を往復する、高齢者に負担のないバリアフリーのバスなどを設置してほしいです。このような事態に対しての県としての考えをお聞かせください。

○鈴木ジョージ君 宮古高等学校2年の鈴木ジョージです。よろしくお願ひいたします。

質問項目2、台風でも停電しないインフラ整備について質問いたします。

沖縄県では、毎年発生する台風の影響により多くの被害を受けています。特に、山や高い建物がない宮古島では、飛来物が電柱に絡みやす

く、台風が来襲する都度に、広範囲での停電被害が起こっています。一部のアパートやマンションでは電気で水をくみ上げているため、断水状態になっています。また、小中学校では給食をつくれず休校になってしまうこともあります。ほかにも信号機が点灯しないために、交通渋滞が起こったり、営業できないスーパーやガソリンスタンドが多数あるため、台風通過後の生活にも深刻な影響を及ぼしています。また復旧にも多くの時間を要しており、ことしですと復旧に最大5日間を要した地域もあります。このことから、山などの風を避けるような地形でない宮古島は、特に電線の地中化を迅速に行う必要があると言えます。そこで沖縄県の電線の地中化計画はどのようになっているのか教えてほしいです。また、これらの問題をなくしていくための宮古島市の無電柱化を優先することはできないでしょうか。

○瑞慶山義愛君 宮古高等学校2年の瑞慶山義愛です。

質問項目3、不法投棄ごみ問題について質問させていただきます。

現在、宮古島市では、処理し切れない不法投棄ごみが多くあることが問題になっています。過去には処理したごみの誤った量を報告したというニュースや、処理する前のごみの量の調査が間違っていたなど、宮古島からごみをなくすための働きはありますが、実際には解決されていません。現在、宮古島には観光客や移住者がふえており、エコアイランドを宣言している宮古島としては、解決しなければならない問題だと考えます。そこで回収されていない不法投棄ごみの量は、どのくらいあるのか調査をお願いしたいです。また、不法投棄ごみの撤去は可能であるのか県の見解を聞かせてください。

質問は以上です。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 宮古高校の御質問にお答えいたします。

台風でも停電しないインフラ整備についての、電線類地中化等の計画についてお答えいたします。

電線類地中化は、道路の防災性の向上や安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成等を目的とし、マクラム通り線など、離島を含む県全域の緊急輸送道路や幹線道路などを優先に整備を進めています。県は沖縄21世紀ビジョン実施計画において、令和3年度までの整備目標を約173キロメートルとしており、平成30年度末までに約155キロメートルの整備が完了し、全国では10位、九州では1位の無電柱化率とな

っております。引き続き電線管理者など関係者との合意の形成に努め、離島を含めた電線類の地中化を推進していきたいと考えております。

その他の質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（稲福明李さん） 企画部長宮城 力君。
〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目1の公共交通の確保、高齢者のための公共交通の確保についてお答えいたします。

宮古島においてクルーズ船の入港時にタクシーが利用しづらい状況があることは認識しており、タクシーの人手不足等の問題について、タクシー協会等と協議を行っているところです。また、県ではお年寄りや障害のある方を含む全ての利用者にとって、乗りおりしやすいノンステップバスの導入に取り組んできたところであり、宮古地域においては平成29年度に宮古共栄バス3台、今年度は共和バス1台の導入に対して補助を行っております。今後とも宮古地域へのノンステップバス導入に向け、バス事業者と連携し取り組んでまいります。

一方、交通空白地域や不便地域の解消等を図るためにはコミュニティーバスやデマンド交通の活用が有効であり、これらについては市町村が主体的に担うこととなっております。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 環境部長棚原憲美君。
〔環境部長 棚原憲美君登壇〕

○環境部長（棚原憲美君） 質問項目3、不法投棄ごみ問題に関連しまして宮古島の不法投棄量の調査と撤去についてお答えします。

県では1カ所での合計数が1トン以上の不法投棄事案について、毎年不法投棄実態調査を実施しており、宮古島市の報告によると、平成29年度は6件、合計234.8トンを確認しております。そのうち5件203.8トンについては、宮古島市が同年度において撤去しておりますが、いまだ新たな不法投棄が確認されている状況があります。このため県では、宮古保健所に沖縄県廃棄物監視指導員を配置し、宮古島と協力して不法投棄防止パトロールを実施するとともに、その撤去についても宮古島市と連携して取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 宮古高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔宮古高等学校一同登壇〕

○宮國優乃佳さん 宮古高等学校1年の宮國優乃佳です。

御答弁ありがとうございました。宮古島では台風災害にある停電や公共交通の確保、不法投棄ごみの問題について質問させていただきました。

た。

本日は貴重な経験をさせていただきまして、大変ありがとうございました。

○議長（稲福明李さん） 南部工業高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔南部工業高等学校一同登壇〕

○仲間重悟君 南部工業高等学校2年の仲間重悟です。よろしくお願ひいたします。

質問項目1、文化財の保護について質問いたします。

世界遺産となっている首里城には、多くの国内外の観光客が訪れていました。先週、首里城の正殿など主な建物が焼け落ちてしまいましたが、再建が必要だと思います。再建に向けてどう取り組むのか聞かせてください。また、龍潭池を含む首里城周辺の整備計画を今後どうしていくのか、聞かせてください。

○宇座愛翔君 南部工業高等学校2年の宇座愛翔です。よろしくお願ひいたします。

次に質問項目2の不発弾対策について質問いたします。

南部工業高校は昨年体育館を改築しました。整備している際、野球部が放課後古い体育館の跡地の石拾いをしましたが、そのときに不発弾が見つかりました。沖縄県はいまだに不発弾が毎年見つかっていますが、県の不発弾撤去の取り組み状況を聞かせてほしい。また、撤去までにあとどれくらいの年月がかかるのかを試算されているか、聞かせてください。

○島袋暁矢君 南部工業高等学校2年の島袋暁矢です。よろしくお願ひいたします。

次に質問項目3、バスについて質問いたします。

南部は、モノレールもなく交通手段が那覇市に比べると不便です。通学にはバスが必要です。南部地区の中学・高校を回る循環バスや、バスの本数をふやす等、バス会社に対しての協力依頼など、県はどのような支援を行っていますか。

質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（稲福明李さん） 知事玉城デニー君。

〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 南部工業高校の御質問にお答えします。

文化財の保護についての首里城の再建及び首里城周辺の整備計画についてお答えいたします。

首里城の正殿等が火災により焼失したのを目の当たりにし、県民を初め、多くの皆様が大変ショックを受けています。私自身も現場を視察したときには、本当に言葉に言いあらわすことができない、大きなものを失ったというそういう感覚に襲われ、胸が痛む思いでいっぱいでした。と同時に、琉球王国の象徴であり、県民の

心のよりどころでもあり、歴史と文化の心に彩られた首里城を必ず復元させなければならないという強い思いも湧き上がりました。実はきょうのお昼に、知事メッセージとして発表しました項目があります。沖縄県として、県庁内に首里城復興戦略チーム及び首里城火災対策等本部設置要綱第6条に基づき、関係課長等で構成する首里城復旧ワーキンググループを設置することとあります。これは首里城の復旧・復興に向けたロードマップの策定など、全庁的な取り組みを迅速に進めるとともに、国とも連携しながら、一日も早い首里城の復旧・復興に取り組んでいくことを目的とするものであります。また、首里城周辺の整備計画につきましては、龍潭の外周園路、松崎馬場、円覚寺及び中城御殿の整備等を検討する予定であります。

その他の質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（稲福明李さん） 知事公室長池田竹州君。

〔知事公室長 池田竹州君登壇〕

○知事公室長（池田竹州君） 質問項目2、不発弾対策に関しまして不発弾処理の取り組みと期間についてお答えいたします。

工事や磁気探査等により発見された不発弾は、自衛隊により爆発しないよう安全処理が行われます。県においては、事故を起こさないよう磁気探査を行ったり、安全処理された不発弾の保管施設管理、また、不発弾を発見した際には、さわらず、警察に連絡するよう周知活動を行っております。沖縄戦で使用された弾薬量は約20万トンと推定されており、その約5%の1万トンが爆発せずに不発弾として残されたものと推定されております。復帰までに住民や米軍などによって処理されたもの、復帰後自衛隊によって処理されたもの等を踏まえると、2018年度における推定残量は約1942トンと見積もられます。戦後74年が経過し、近年では、不発弾の発見及び処理量が減少傾向にあることから、その処理には長期間を要するものと考えております。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 企画部長宮城 力君。

〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目3のバスについての、バス会社への支援についてお答えいたします。

県は、高齢の方や障害のある方など、いわゆる交通弱者の日常生活の足を確保するため、運行収入だけでは維持が困難な、南部地域を含む39のバス路線に対し、国、市町村と連携して補助を行うことにより、バス路線の確保・維持に努めております。また、昨今、運転手不足を原因とする路線バスの減便が発生していることか

ら、県はバス事業者が行う運転手確保に係る取り組みを支援することとしております。あわせて、県から沖縄県バス協会に対し、路線バスのダイヤ改正の際には、県民生活に配慮するよう申し入れたほか、運送事業についての許認可及び指導監督等を行う、国の沖縄総合事務局運輸部に対しても、県と歩調を合わせて、指導を行っていただくよう依頼したところです。一方、交通空白地域や不便地域の解消等を図るためには、コミュニティーバスやデマンド交通の活用が有効であり、これらについては、市町村が主体的に担うこととなっております。

以上でございます。

○議長（稲福明李さん） 南部工業高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔南部工業高等学校一同登壇〕

○宮里璃玖斗君 南部工業高等学校2年の宮里璃玖斗です。御答弁ありがとうございました。

再質問させていただきます。

先ほどの御答弁で、文化財の保護について、龍潭池を含む首里城周辺の整備計画の今後をどうしていくのかを、もう少し具体的に御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（稲福明李さん） 土木建築部長上原国定君。

〔土木建築部長 上原国定君登壇〕

○土木建築部長（上原国定君） 南部工業高校の再質問にお答えいたします。

龍潭周辺の整備の詳細についてということですが、基本的に龍潭そのものの整備はおおむね完了しております。ただ龍潭周辺の遊歩道の整備についてはいまだ一部石積みが崩落しているところもありますし、園路がつながっていない部分もございますので、そういったところを今後しっかりと整備していく予定となっておりますし、松崎馬場ということで浦添方面につながる西海道があったというふうにされております。そういったところの発掘調査も行いながら園路整備を行う予定でございます。あと、過去に県立博物館があった中城御殿跡につきましては、発掘調査を行っており、その調査結果を整理したのち、中城御殿というのは琉球王朝時代世継ぎの住居でございました。そういったことの復元整備についても取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○議長（稲福明李さん） 南部工業高等学校の皆さん、よろしいですか。

〔「再質問なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（稲福明李さん） それでは20分間休憩いたします。

午後2時28分休憩

午後2時48分再開

○議長（大城優衣さん） 再開いたします。

午後の後半の議長を務めさせていただきます南風原高等学校の大城優衣と申します。

よろしくお願いいたします。

休憩前に引き続き質問を行います。

宜野座高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔宜野座高等学校一同登壇〕

○島田 ひまりさん 宜野座高等学校1年の島田ひまりです。よろしくお願いいたします。

質問項目1、就職率について質問いたします。

現在、本県では新規高校卒業者と新規大学卒業者の無業者比率が全国1位となっております。私たちは、その原因が無業者に対するサポート体制が不十分なことに考え、サポートする体制を早急に整えるべきだと考えます。このことに関して、御意見をお聞かせください。

○仲地 彩葉さん 宜野座高等学校1年の仲地彩葉です。よろしくお願いいたします。

次に、質問項目2、大人の学び直しの制度について質問いたします。

これからの時代、人工知能が発達し、大きな社会変動が予測されると同時に、現在ある仕事の内容も大きく変わり、その中で、今まで身につけてきた知識や技能では、新しい社会変化や仕事に対応できなくなる状況も想定されます。そうすると、一旦社会に出た後に、新しい知識・技能を身につけるための学び直しが必要になってくると考えます。そのようなもう一度学び直したいと考える人たちのためにどのような政策、環境整備を考えていらっしゃるのかお聞かせください。

○仲本 妃那さん 宜野座高等学校1年の仲本妃那です。よろしくお願いいたします。

次に、質問項目3、貧困対策について質問いたします。

沖縄県は離婚率が高いことから、シングルファザー、シングルマザーが多く、それに伴い貧困率も30%近くに上り、全国の2.2倍と高い状況にあります。その影響のため、貧困の中にある子供たちが夢や希望も捨て、高校や大学への進学を諦めてしまうこともあります。その結果、所得の低い仕事にしかつくことができず、このことがさらには将来の子供たちにまで負の連鎖が続くことになりかねません。このような悪循環を脱するために、県としてどのような取り組みを行っているか具体的に教えてください。

質問は以上です。御答弁よろしくお願いいたします。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。

〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 宜野座高校の御質問にお答えいたします。

貧困対策についての、貧困の連鎖を断つため

の対策についてお答えいたします。

沖縄県では、経済的困窮による子供の学習のおくれが、その後の貧困へとつながる貧困の連鎖を防止するため、平成24年度より、低所得世帯の児童生徒に対して無料塾による学習支援を実施しています。当初、1町1教室からスタートして、現在では、25市町村32教室で約1000名の児童生徒に学習支援を実施しています。学習支援を続けていく中で、生徒の中からもっと勉強したい、難関高校や大学に進学したい、といった声が出てきています。このため、沖縄県では、従来の学習習慣の定着などを目的とした無料塾に加えて、新たな学習支援として、進学意欲がある中高生を対象に合格実績のある民間の進学塾で学んでいただくことで、より高い目標へチャレンジできる取り組みを始めました。

私は、子供たちの将来が生まれ育った環境によって左右されることなく、夢や希望を持って成長していける社会の実現を目指し、無料塾などの学習支援を初め、さまざまな対策に全力で取り組んでまいります。

その他の質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（大城優衣さん） 商工労働部長嘉数登君。

〔商工労働部長 嘉数 登君登壇〕

○商工労働部長（嘉数 登君） 宜野座高校議員からの就職率についての御質問のうち、新規学卒無業者へのサポート体制についてお答えいたします。

学卒無業者の改善に向けては、在学中から職業観の育成や就業意識の向上を図ることが重要であると考えております。このため、教育庁や大学等と連携しながらキャリア教育やインターンシップ、各種セミナーなどを実施しております。また、若年者の就職を総合的に支援する機関として設置された、沖縄県キャリアセンターにおいては、企業情報を発信し、求職者と企業を結びつけるための支援を行うとともに、専門のキャリアコーチによる就職相談を行うなど、職業観の育成から就職まで一貫して支援を行っております。

次に、大人の学び直しの制度についての御質問のうち、社会人の学び直しの制度と環境整備についてお答えいたします。

社会人の学び直し、いわゆるリカレント教育につきましては、ライフスタイル、ライフステージに応じた職業能力の開発・向上を支援することで、何歳になっても学び直し、キャリアアップ、職場復帰、転職が可能となる社会をつくり出すことは重要であると認識しております。

国においては、リカレント教育の普及を図るため、電気機械、電子技術などの専門学校等に

おける社会人向け講座の認定、受講料等の教育訓練給付金や企業の長期教育訓練休暇制度への助成等の支援を行っております。県では、県立職業能力開発校において、ウェブ制作や情報処理技術を習得する情報システム科などを設置して職業訓練を実施し、職業に必要な知識・技能を習得させ、職業の安定と地位の向上を図っております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 宜野座高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔宜野座高等学校一同登壇〕

○島田 ひまりさん 宜野座高等学校1年の島田ひまりです。

御答弁ありがとうございました。

再質問をさせていただきます。

まず、質問項目1について、インターンシップは重要だと考えますが、中学校で体験してみても、なかなか希望する場所に行けず、インターンシップ体験に意義を感じなかったとする同級生も少なからずおりました。こうしたミスマッチの状況に対する改善策について、どのようにお考えか教えてください。

例えば、宜野座高校では今年度から、インターンシップ先探しを生徒自身が行う取り組みにチャレンジしています。こうした取り組みへのサポートなどについても教えてください。

○仲地彩葉さん 宜野座高等学校1年の仲地彩葉です。

質問項目2の学び直しの制度について、職業能力開発校以外にも、大学や専門学校等における学び直しに対するサポート等や施策などがあれば教えてください。

再質問は以上です。御答弁よろしくお願いたします。

○議長（大城優衣さん） 教育長平敷昭人君。

〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） 宜野座高校の再質問で、インターンシップについての御質問にお答えいたします。

インターンシップ先についてミスマッチ等もあり、なかなか意識が高まらないという趣旨の御質問がございましたが、インターンシップ先につきましては、学校、教育委員会としても、引き続き受け入れ先についてさまざまな方法で開拓に努めてまいりたいと考えております。また、そのミスマッチというのも、生徒の皆さんが希望する就職先と企業が合っているのが、確かにインターンシップでもそうですし、実際の就職の場でもミスマッチというのが起こっております。その辺はなかなか構造的な問題もございしますが、早い段階からですね、生徒の皆さんの希望する、職業観も確立しながら、どうい

仕事をやりたいかというものをよく考えていた
きながら、そこに行くためにはどういうこと
を一生懸命頑張ればいいのかということも、生徒
の就職先の進路指導という意味で、指導も強化
しながら、教育委員会としても取り組んでまい
りたいと思います。

また、教育委員会で現在就職希望者に対して
は、さまざまな内定に向けた宿泊研修でありま
したり、社会人になる自覚を促すための研修と
か、また、就職希望者の多い学校には、就職支
援員を配置しまして、就職の相談や就職試験に
向けた支援など細かな就職指導も行っておりま
すので、引き続き、進路指導等についてさまざ
まな観点で生徒の皆さんの意見も伺いながら頑
張ってまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 文化観光スポーツ部
長新垣健一君。

〔文化観光スポーツ部長 新垣健一君登壇〕

○文化観光スポーツ部長（新垣健一君） 宜野
座高校の再質問ですね、職業能力開発校以外
の機関がないかという再質問の一部にお答えい
たします。

私どものほうで、沖縄県立芸術大学というの
がございまして、沖縄県立芸術大学では、社会
人の学び直しのために、音楽学部の琉球芸能専
攻において社会人選抜を導入しております。
これは社会人として4年以上経過した22歳以上
の方を対象に入学試験を行っているものでござ
います。

もう一点ですが、来年度に導入することとし
ておりますが、県立芸術大学の大学院におきま
して、標準の修業年限を超えて2年の——例え
ば修士課程を3年とか4年とか、そういった長
期に認めるといふ長期履修学生制度を来年導入
するというようにしております。長期履修制度
につきましては、職業を有しているなどの事情
によって、標準の修業期間で履修が困難な学生
を対象に、長期に延ばすことによって教育課程
を履修しやすいようにする仕組みでございま
す。

それぞれのこの社会人選抜、あるいは長期履
修学生制度を利用することによって、学び直し
をしたい社会人でありますとか、そういった方
々に門戸を広く開き、学びやすい環境を整える
とともに、沖縄の芸術文化の継承と創造発展に
今後も寄与していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 商工労働部長、嘉数
登君。

〔商工労働部長 嘉数 登君登壇〕

○商工労働部長（嘉数 登君） 再質問にお答
えいたします。

県立職業能力開発校以外でのリカレント教育

の実施についてという趣旨の御質問だったと思
いますが、令和元年8月現在ですね、沖縄県内
においては、38の指定講座が用意されていま
す。例えば、介護福祉士でいえば沖縄リハビリ
テーション福祉学院、それから沖縄アカデミー
専門学校、この機関において介護福祉士の指定
講座が設けられております。それから、看護師
に関していうと、那覇市医師会那覇看護専門学
校、それから沖縄看護専門学校、浦添看護学校、
ぐしかわ看護専門学校、さらに北部地区医師会
の北部看護学校で同指定講座が用意されてお
りまして、全部で38の指定講座が用意されてお
り、国においてもリカレント教育の普及に努めて
いるところでございます。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 宜野座高等学校の皆
さん、よろしいですか。

〔「再質問なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大城優衣さん） 開邦高等学校の皆
さん、御登壇願います。

〔開邦高等学校一同登壇〕

○池間 はなさん 開邦高等学校1年の池間
はなです。よろしくお願ひいたします。

質問項目1、県外における基地問題の認識に
ついて質問いたします。

ことしの2月に行われた普天間基地の辺野古
移設に関する県民投票では、過半数が反対とい
う結果となりましたが、しかし、現在も移設工
事は進行しています。このことについて、私
たち県民が興味を持ちかかわっていくのはもち
ろんのことですが、県外ではどのように捉えら
れているのでしょうか。一部では沖縄県の基地
負担は少ないのではないかという意見も聞いた
ことがあります。基地問題は、沖縄県だけでなく
日本が抱える問題であることを県外の人に知
ってもらうためにも、私たちは基地問題につ
いて全国にもっと発信していくべきだと考え
ます。このことに関して、県が考えている、
または行っている取り組みはありますか。

○加蘭 太一君 開邦高等学校1年の加蘭太
一と

○久場 悠生君 久場悠生です。

○加蘭 太一君・久場 悠生君 よろしくお願
ひいたします。

○加蘭 太一君 次に、質問項目2、最低賃
金の向上について質問いたします。

沖縄県ではことし10月以降、最低賃金が762
円から790円へと28円引き上げられます。現
在、沖縄の最低賃金は全国的にも低水準であり
、そのような中、最低賃金が引き上げられる
というのはいいことだと思います。しかしなが
ら、全国平均で見てもことしの最低賃金の引
き上げ額は28円と同じであり、また今回の賃
上げで最低

賃金が1000円を超える東京都においても、上げ額は27円と沖縄とほとんど差がありません。このままでは、今存在している最低賃金の差がこれからもなかなか減っていかないと思います。

○久場 悠生君 この差を縮めるには、全国のどの地域でも行われていない沖縄の独自の賃上げ対策をとるべきだと思います。そして、沖縄において独自の対策となり得るのは、返還された米軍基地の跡地に大工事を誘致するなどして、跡地を活用した将来性のある産業を育てること等があると考えましたが、そのような沖縄独自の賃上げ対策は何か考えている、または行っているものはありますか。

○東 小恵さん 開邦高等学校1年の東小恵です。よろしくお願いたします。

次に、質問項目3、鉄軌道計画について質問いたします。

鉄軌道計画について、特に恩納村などのリゾート地の近くにおいてトンネルを掘ってつくる地域では、赤土が海に流出するおそれがあります。恩納村は、リゾート地として有名ですが、土砂によってそれらの地域の海が汚染されるおそれがあります。このような問題には、具体的にどのような取り組みをする予定か教えてください。また、ルートに普天間基地の返還跡地が入っているのですか。どのようにしてこの問題に取り組む予定でしょうか。

質問は以上です。御答弁よろしくお願いたします。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 開邦高校の御質問にお答えいたします。

県外における基地問題の認識について、辺野古新基地建設問題に係る県外での認識と情報発信などについてお答えいたします。

政府が埋立工事を進める中で行われた、ことし2月の県民投票では、投票者の71.7%に当たる43万4273人の方が辺野古埋め立てに反対するという圧倒的多数の県民の民意が明確に示されています。その後、行われた全国世論調査においては、県民投票結果を政府は尊重すべきだとした回答が68.7%となっており、辺野古移設に反対する県民の思いは、本土の方々にも伝わっているものと考えております。

また、国土面積の約0.6%しかない沖縄県に、米軍専用施設面積の約70.3%が集中していると述べていることに対して、沖縄の基地負担は少ないという意見もありますが、これは、自衛隊との共同使用施設を含む米軍施設面積の占める割合が約19%であることを捉えたものと認識しております。しかしその場合でも、面積で約37倍もある北海道に次いで沖縄は第2位となって

おり、決して少ない割合ではないと考えております。ちなみに、全国での基地負担の割合を見ると、沖縄が70.3%で第1位。2位の青森は9%弱、3位の神奈川県でも5%弱しかありません。そのことから、沖縄がいかに米軍基地の専用施設面積を負担し続けているかということについて明らかになっています。

こうした誤解を解くため、沖縄県では、議員の皆様にもお配りさせていただいたと思いますが、このように米軍基地問題に関するQ&Aパンフレットを作成し、これまで約12万部を配布し、沖縄県のホームページでも公開するなど、正確な情報発信に努めております。さらに、全国の皆様に基地問題を沖縄だけの問題ではなく、日本とアメリカの同盟関係の中における自分ごととして考えていただくために、このようなQ&Aのパンフレットなどを参考資料としていただきながら、私自身が全国各地を訪れて、直接その問題について考えていただくためのトークキャラバンを実施しているところでもあります。

その他の御質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（大城優衣さん） 商工労働部長嘉数登君。

〔商工労働部長 嘉数 登君登壇〕

○商工労働部長（嘉数 登君） 開邦高校議員からの最低賃金の向上についての御質問の中の、沖縄独自の賃上げ対策と取り組みについてお答えいたします。

地域別の最低賃金について、最低賃金法では、地域における労働者の生計費及び賃金並びに通常の事業の賃金支払い能力を考慮して定めることとされております。そのため、県では、最低賃金の向上について、県内中小企業等の経営革新や経営基盤の強化、半導体製造業等の誘致やバイオ・医療等の高付加価値産業の創出による県内企業への波及等に向けた取り組みを推進しているところでもあります。こうした取り組みに加え、農林水産、観光、商工分野による連携体制を構築し、産業横断的なマーケティング力を強化するなど、企業の稼ぐ力に資する取り組みを積極的に推進し、企業所得を向上させ、その成果を働く人々に分配する経済の好循環を生み出すことで、賃金の上昇につなげてまいりたいと考えております。また、今後返還が予定されている嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の跡地利用については、中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想においてさまざまな産業・機能の導入が示されております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 企画部長宮城 力君。

〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目の3、鉄

軌道計画の鉄軌道導入に伴う環境対策等についてお答えいたします。

県では、多くの県民等から寄せられた意見も踏まえ、平成30年5月に沖縄鉄軌道の構想段階における計画書を策定したところです。当該計画書では、那覇市から浦添市、宜野湾市、北谷町、沖縄市、うるま市、恩納村を經由し、名護市を結ぶルートを概略計画として決定し、主な構造を、市街地部は地下トンネルや高架橋、郊外部は山岳トンネルや高架橋として想定したところです。宜野湾市への導入を初めとした具体的なルートや駅位置、構造、施工方法等については、構想段階の次の計画段階において、まちづくりへの効果や事業費等のコスト等に加え、赤土流出防止等、自然環境についても影響が生じないように十分に配慮しながら検討されることとなります。

なお、公共交通は、普天間を含む駐留軍用地跡地の開発及び活性化を図る上で、人や物の流れ等を支える重要なインフラであることから、鉄軌道の具体的なルート等の検討に当たっては、これら開発の効果を高めることも考慮しながら、検討を行っていくこととしております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 開邦高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔開邦高等学校一同登壇〕

○加蘭 太一君 開邦高等学校1年の加蘭太一です。

御答弁ありがとうございます。

再質問させていただきます。

先ほど、質問1、県外における基地問題の認識についての質問で、県民投票で圧倒的な民意が示されたにもかかわらず、政府は尊重すると申し上げただけで、何も開発をとめることには至っていません。沖縄県は、どのようにして、この県民投票の拘束力がないことを、どうやって乗り越えていくおつもりですか。よろしくお願います。

以上です。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。

〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 再質問にお答えいたします。

まず私は、かねてからこの基地問題については、全国の皆さんが沖縄の問題としてではなく、国民全ての問題として捉えていただきたということ、全国の皆さんに理解と協力をしていただくために、今年度は全国キャラバンで、この沖縄における基地負担の現状と、そして日米地位協定という、日本とアメリカにおける米軍基地に関するその取り決めについても、抜本的、根本的に見直しをする必要があるということと

あわせて、自分ごととして考えていただくよう、世論がその政治に影響しているということ、現況の政治体制から踏まえて、そのことについて国民の皆さんに理解を呼びかけているものがあります。

そして、政府に対しては、この普天間基地の移設の問題は辺野古移設ありきで進めるのではなく、対話によってその根本的な問題を解決していきましようということでの問題解決を呼びかけているところですが、先ほど再質問にもありましたとおり、県民投票で圧倒的な反対の民意が示されたにもかかわらず、依然として政府は工事を進めています。しかし、私たちは、昨年この埋立工事についての承認は撤回をし、現在国がその撤回を違法な状態で工事を進めていることから、裁判でそのことについての是非を争っていることもまた事実です。私たちの主張が認められれば、当然工事はとめられることになり、この辺野古建設、辺野古移設については、もう一度政府も県と協議をしなければいけないという場面を迎えることも想定されています。

しかし、いずれにいたしましても、私たちは一つ一つの手だてを講じて、行政のとれる手段はしっかりと講じていきますが、政府においては真摯に沖縄県と話し合い、根本的にこの米軍基地の問題、沖縄における過重な基地負担の軽減について、胸襟を開いて話し合いをする中で解決策を見つけていただきたいと、そのように私たちは問題の解決のための具体的な方法についての要求を、求めをさせていただいているところでもあります。いずれにしましても、そのような一つ一つ丁寧な取り組みを進め、多くの国民の皆さんに理解をしていただくことによって、真に対等な日本とアメリカの良好な関係につながるよう、そのことも念頭に置きながら、しっかりと進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（大城優衣さん） 沖縄工業高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔沖縄工業高等学校一同登壇〕

○山城 勇樹君 沖縄工業高等学校3年の山城勇樹です。

よろしくお願いたします。

質問項目1、鉄軌道の建設について質問いたします。

鉄軌道の建設において、沖縄の観光という観点に着目すると、鉄軌道の整備は観光、生活においての最重要課題だと思えました。具体的には、海が一望できる鉄道の開発など、新しい観光の仕方を売りにできるのではないかと思います。それについて県の考えを聞かせてください。

○新垣 大輔君 こんにちは。沖縄工業高等学

校3年の新垣大輔です。

質問項目2の、教育についてを質問させていただきます。

沖縄県は全国的に見ても、学力に課題があり、背景には低所得や母子家庭など、社会的に弱い立場の人たちの学習環境が整っていないことが挙げられます。そこで、教育やその他の支援サービスにもっとお金をかけてもよいのではと考えています。沖縄県の経済は成長していますが、全国最低の所得の状況で、子供のサポートや母子家庭への支援をもっと手厚くするには、どのような政策を検討しているのか県の考えをお聞かせください。

○真座 勇氣君 こんにちは。沖縄工業高等学校3年の真座勇氣です。よろしくお祈いします。

次に、質問項目3、沖縄の情報教育について質問いたします。

来年度から小学校でプログラミング教育が必修化されます。しかし、機械やネットワーク環境の不足、県、市、教育委員会の支援、学習、研修時間の不足、教育教材の不足等の多くの課題が出てくると想定されます。このような状況の中で、どのような対策をとっていくのか、また、障害のある子供に対する情報教育はどのようにしていくのか県の考えをお聞かせください。

質問は以上です。御答弁よろしくお祈いします。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 沖縄工業高校の御質問にお答いいたします。

教育についての子供や母子家庭への支援策についてお答いいたします。

沖縄県では、子供の貧困対策を県政の最重要政策に掲げ、全力を挙げて取り組んでいるところです。子供への支援としては、県内の約170カ所で子供の居場所や子供食堂が設置されており、夜間19時以降も開所している居場所も約70カ所設置されています。また、貧困の連鎖を防止するため、低所得世帯の児童生徒に対する無料塾による学習支援も32教室で実施しています。

母子家庭等ひとり親家庭に対する支援としては、高校生に対するバス通学定期券の半額補助や、親子の健康保持を図るため医療費の一部助成を行っています。さらに、労働条件のよい仕事につけるよう資格取得のための講座や就労相談など就労支援を行うとともに、ひとり親家庭が地域の中で自立した生活を営むことができるよう、民間アパートを借り上げるなどの支援を行っています。

私は、沖縄の未来を担う子供たちが、夢や希望を持って成長していくことを願っています。引き続き、子供を取り巻く貧困問題への対策を

強力に推進し、誰一人取り残すことのない、沖縄らしい優しい社会を築いていくために、全力で取り組んでいきます。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（大城優衣さん） 企画部長宮城力君。
〔企画部長 宮城 力君登壇〕

○企画部長（宮城 力君） 質問項目1、鉄軌道の建設と観光振興についてお答いいたします。

平成26年度から取り組んだ沖縄鉄軌道の構想段階における計画案づくりにおいては、地形図等から把握できる範囲で、地下トンネルや高架橋等の構造を想定したところです。構造の具体的な検討については、構想段階の次の計画段階において、地域の状況等を詳細に把握した上で、コストや環境面に加え、車窓からの眺め等、観光の視点も踏まえながら、幅広く検討していくこととしております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） 沖縄工業高校の御質問にお答いいたします。

3の情報教育についての御質問です。また、障害のある子供に対する情報教育についてお答いいたします。

新学習指導要領においては、障害のある児童生徒についても、コンピューター等の情報機器に触れたり、活用する指導の充実を図ることが示されております。御質問の中で、プログラム教育についての支援についてはありましたが、ICT機器の活用については、各学校でICT機器活用に関する研修を行っております。また、県立総合教育センターの短期研修において、教員の指導力向上にも努めているところでございます。

本県の特別支援学校におきましては、全国に先駆けて、平成22年度からタブレット端末などのICT機器を導入しておりまして、お金の計算ができるアプリケーション等の開発を行い、これらの機器を活用した情報教育に取り組んでおります。県教育委員会としましては、今後とも障害のある児童生徒を含めたICT機器の活用能力育成や情報モラルの理解向上など、情報教育の一層の充実にも努めてまいります。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 沖縄工業高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔沖縄工業高等学校一同登壇〕

○山城 勇樹君 沖縄工業高等学校3年の山城勇樹です。

御答弁ありがとうございました。

産業、教育という観点から、沖縄のよりよい

暮らしを考える、このようないい機会を設けられましたこと、知事及び各部局長、感謝しています。本日は貴重な経験をさせていただきまして、大変ありがとうございました。

○議長（大城優衣さん） 沖縄カトリック高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔沖縄カトリック高等学校一同登壇〕

○ラザフォード ライアン ノボル君 沖縄カトリック高等学校2年のラザフォードライアンノボルです。

よろしく願います。

質問項目1、こども医療費助成事業の全県統一について質問いたします。

現在、沖縄県では、こども医療費助成事業が行われていますが、支援内容が各市町村によって異なっています。例えば支援内容については、自動償還か現物給付なのか、自己負担のあり、なしや、入院か通院かでも内容が異なっています。対象年齢についても、未就学児から中学生までは全ての市町村で対象とされていますが、高校生までを支援対象としている市町村は限られています。沖縄県の貧困率が高いことを考えると、対象年齢を高校生までとし、さらに制度の内容を全ての市町村で統一したほうがいいのではないかと考えます。沖縄県としてのお考えをお聞かせください。

○久志 香己乃さん 沖縄カトリック高等学校2年の久志香己乃です。

よろしく願います。

次に、質問項目2、特別支援教育について質問いたします。

沖縄県では特別支援を必要とする子供たちに十分な支援が行われていないと感じています。また教員や親の負担が大きく、家庭や学校では疲弊も進んでいます。特別支援学校へ医療専門職の配置を行い、障害を持つ子やその親、教員の負担を軽減する必要があると考えます。文部科学省によると特別支援学校において、専門家などの外部人材を配置・活用した教育活動を実践するとありますが、沖縄県としてその取り組みを行っているのか、行っているのであればその内容を教えていただきたいです。

○ラザフォード ライアン ノボル君 沖縄カトリック高等学校2年のラザフォードライアンノボルです。

よろしく願います。

次に、質問項目3、サンゴを守る取り組みについて質問いたします。

近年、日焼けどめに含まれる成分が、サンゴなどに悪影響を及ぼすとの研究結果が示されています。沖縄と同じくサンゴが貴重な観光資源となっているパラオやハワイなどでは、サンゴに有害な日焼けどめの販売を禁止する法律が制

定され、2021年までには施行されます。沖縄のサンゴ礁も、その美しさは世界でも有数のものであり、とても貴重な観光資源となっているのと同時にその保全が必要です。環境保護と観光との両立を考えていくために、沖縄県においてもパラオやハワイのようなサンゴを守る取り組みを行っているのか、行っているのであればその内容を教えていただきたいです。

質問は以上です。御答弁よろしく願います。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。

〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 沖縄カトリック高校の御質問にお答えいたします。

サンゴを守る取り組みについての、県の取り組みについてお答えいたします。

沖縄県では、サンゴ礁保全のため、これまで、約15万本のサンゴを約3.42ヘクタールの海域へ植えたほか、サンゴの遺伝子解析やサンゴ礁保全活動を実施する県内76団体に支援を行っています。現在、恩納村及び久米島町において、サンゴの植えつけなどのサンゴ礁保全活動を継続して行うとともに、沖縄科学技術大学院大学や琉球大学を初めとした研究機関と連携し、植えつけるサンゴの低コスト化ですとか白化対策、オニヒトデの駆除方法に関する調査研究を実施しております。また、県内でもサンゴに配慮した日焼けどめ剤の販売に取り組んでいる企業もあり、その普及について専門家の皆さんの意見も聞きながら、引き続き沖縄の美しいサンゴ礁の保全に取り組んでまいります。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（大城優衣さん） 保健医療部長砂川靖君。

〔保健医療部長 砂川 靖君登壇〕

○保健医療部長（砂川 靖君） それでは、沖縄カトリック高校の、こども医療費助成事業の全県統一についての御質問にお答えいたします。

こども医療費助成事業につきまして、県は、通院は未就学児まで、入院は中学校卒業までを対象とし、市町村が助成した経費の2分の1以内の補助をしております。県は、市町村を包括する広域の地方公共団体として、制度の統一性を図る観点から可能な限り多くの市町村が実施できる内容で基準を設定する必要があると考えております。県としましては、県内のどの市町村においても同様なサービスの提供が受けられるよう、通院対象年齢の中学校卒業までの拡大を視野に入れながら市町村と協議を進めていくこととしており、高校生までの拡大については、その後の課題と考えております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） それでは、沖縄カトリック高校の御質問に、特別支援教育の質問の、外部専門家の配置活用についてお答えいたします。

本県では、県立特別支援学校において、これまで医療的ケアの必要な児童生徒の学習保障や保護者の負担軽減のため、看護師を配置してきました。また、障害のある生徒や保護者等の心のケアに当たるため、スクールカウンセラーを配置しております。さらに、教員の指導力向上や障害のある乳幼児の早期支援及び保護者の相談体制の強化を図る目的で、平成30年度から、視能訓練士、言語聴覚士を配置しており、専門的な見地からの助言を受けております。県教育委員会としましては、今後とも外部専門家を活用し、幼児・児童生徒の支援の充実に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 沖縄カトリック高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔沖縄カトリック高等学校一同登壇〕

○ラザフォード ライアン ノボル君 御答弁ありがとうございました。

再質問をさせていただきます。

先ほど玉城知事がおっしゃったとおり、環境の維持とその改善というのはとても重要なんですが、環境問題と観光との両立を考える上では、観光客などが実際にその環境を知ることが重要だと思っております。それで、例として美しいサンゴ礁をグリーンベルト等で残せても、そのサンゴ礁の存在を観光客が知らなければ、環境問題の解決だけで終わってしまっていて、観光につながらないということが起きてしまうのではないかと思います。なので、沖縄本来の自然を守るだけではなく、見せる取り組みについても伺いたいです。

よろしくをお願いします。

○議長（大城優衣さん） 文化観光スポーツ部長新垣健一君。

〔文化観光スポーツ部長 新垣健一君登壇〕

○文化観光スポーツ部長（新垣健一君） 沖縄カトリック高等学校の再質問にお答えをいたします。

沖縄カトリック高等学校の皆さんが御指摘のようにですね、本県の観光にとりまして、青い海、白い砂浜、それから美しい海岸線、サンゴ礁など、まさに誇るべき自然というのが、あと豊かな自然というのを活用し、また保全しながら、大事にやっていくというのが本県の重要な観光資源であると。また観光施策で重要なことだというふうに考えております。

もちろん、これまでもサンゴ礁につきましては、いろんな民間事業者さんも含めて、いろいろと観光客の方にグラスボートを使ったり、見ていただくというような観光が広く行われているところでございます。また、私どもとしましても、そのサンゴ礁ですね、大事にしていきながら観光につなげるというところから、例えば一つの事例としては、観光に来ていただく、あるいは会議や学会、あるいは企業の皆様の報奨旅行というのがございます。いろんな会社の中で今年度の売り上げがよかった方々が、沖縄に来て、よく頑張ったねというような旅行などがあります。そういった旅行といわゆるサンゴ礁の保全の体験を組み合わせるようなプログラムというのもございまして、例えばその商品化に向けての助成事業なども行ってございまして、また実際にそれが民間の商品として自走化している、実際に売り出されているというような事例もございます。

またあわせてまして、いわゆるエコツーリズムの推進というのが大事でございますので、その中で、人材育成であるとか、研修事業、あるいはメニューづくりなどを支援しまして、そういった取り組みを、県としても推進するとともに、事業者様を含め、そういった活動に対する助成などを行っているところでございます。引き続き、沖縄の景観、自然保護を大事にしていきながら、また、観光をより発展させるためにもどのような取り組みができるかというのを今後とも検討してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（大城優衣さん） 沖縄カトリック高等学校の皆さんよろしいですか。

〔「再質問なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大城優衣さん） 首里高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔首里高等学校一同登壇〕

○渡久山 健君 首里高等学校2年の渡久山健です。よろしくお願いたします。

質問項目1、日米地位協定について質問させていただきます。

これまで沖縄県は欧州に職員を派遣するなどして日米地位協定と、欧州における米軍と受け入れ国との地位協定を比較する調査を行いました。今後とも欧州のみならず、他国の米軍受け入れ国、例えば韓国あるいは中東のサウジアラビアといった国に職員を派遣するなどして、協定の比較調査を行う計画はあるのでしょうか。また、今までの調査をもとに、日米両政府に改定案などを提言する計画はこれからはあるのでしょうか。

○石川 ひなのさん 首里高等学校2年の石川ひなのです。

よろしくお願ひいたします。

次に、質問項目2、沖縄県北部の世界自然遺産登録について質問いたします。

現在、沖縄県北部のヤンバルの森並びに西表島、奄美を含めた自然を世界自然遺産に登録しようとする動きがありますが、仮に実現した場合、さらなる観光客増加による宿泊施設の増加やごみ問題の増加などが懸念されていますが、それに対処するプランなどは県などで計画されていますか。また、世界自然遺産登録に向けて、県としてはどのような活動を行う予定ですか。

○友寄 英翔君 首里高等学校2年の友寄英翔です。

よろしくお願ひいたします。

次に、質問項目3、バス通学無料化について質問いたします。

玉城知事が公約に掲げていたバス通学の無料化ですが、この政策はいつごろ実現できるのでしょうか。また、仮に実現したときに、財源はどこから持ってくるのでしょうか。

質問は以上です。御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長(大城優衣さん) 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事(玉城デニー君) 首里高校の御質問にお答えいたします。

日米地位協定についての他国地位協定調査についてお答えいたします。

沖縄県が行ったこれまでの調査で、ドイツ・イタリア・ベルギー・イギリスなど米軍基地のあるヨーロッパ各国では、自分の国の法律、つまり米軍を受け入れている国の法律や規則を米軍にも適用させることで自国の主権を確立させ、米軍の活動をコントロールしていることがわかりました。この調査結果については、去る7月に47都道府県知事で構成する全国知事会の会議で私から報告を行いました。その後、オーストラリアで調査を行ったところ、ヨーロッパと同様の状況でありました。今後は、フィリピン・韓国で調査を行い、調査結果をSNSやパンフレットなど国民の皆様にもわかりやすい形で示していきたいと考えています。

沖縄県では、平成29年に日米地位協定の抜本的な見直しを政府に要望したところです。全国知事会においては、平成28年に沖縄県からの提案により米軍基地負担に関する研究会を設置していただき、平成30年には米軍基地負担に関する提言を全会一致で取りまとめ、日米地位協定の抜本的な見直しを初めて政府に提言しました。沖縄県としては提言の実現に向け、全国知事会とも連携しながら、取り組んでまいりたいと考えております。

そのほかの質問につきましては、部局長から

答弁をさせていただきます。

○議長(大城優衣さん) 環境部長棚原憲実君。
〔環境部長 棚原憲実君登壇〕

○環境部長(棚原憲実君) 質問項目2、沖縄県北部の世界自然遺産登録についての、登録に向けた県の取り組みについて回答いたします。

沖縄県北部のヤンバルの森については、奄美大島、徳之島及び西表島とともに世界自然遺産登録を目指し、各種取り組みを進めているところです。県では、遺産登録後の観光客増加を見据え、観光による自然環境の過剰利用が生じないように、地元3村と連携し、自然環境の保全と適切な観光利用の両立を図るための基本計画の策定に取り組んでおります。また、遺産価値である豊かな自然環境の保全を図るため、沖縄県希少野生動物保護条例を制定し、マングース等の外来種対策や希少種の密猟防止対策等をより強化することとしております。

県としましては、引き続き、国や地元関係団体等と緊密に連携しながら、2020年の確実な登録を目指して取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長(大城優衣さん) 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長(平敷昭人君) 首里高校の御質問で、3、バス通学無料化についてお答えいたします。

バス通学無料化については、教育委員会において通学の実態調査を行い、現在、分析を行っているところです。その結果を踏まえ、将来にわたって継続可能な支援のあり方を検討し、次年度開始も含め、可能な限り早期に実施できるよう取り組んでいるところです。また、財源について、現時点においては、振興予算ではなく県税などの一般財源を想定しているところです。

○議長(大城優衣さん) 首里高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔首里高等学校一同登壇〕

○渡久山 健君 首里高等学校2年の渡久山健です。御答弁ありがとうございました。

再質問をさせていただきます。

先ほどバス通学無料化について、今現在県主体でやっているのと答弁をいただきました。あともう一つ、もしこの制度が実現した場合ですが、補助制度の対象範囲というのは明確に決まっているのでしょうか。

御答弁よろしくお願ひいたします。

再質問は以上です。

○議長(大城優衣さん) 教育長平敷昭人君。
〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長(平敷昭人君) 再質問にお答えいたします。

先ほど答弁の中で、「将来にわたって継続可能な支援のあり方を検討し、」というふうに申

上げました。現在ですね、その調査を踏まえて、その規模感も含めて検討しております。いずれにしても、この家庭の経済環境にかかわらず、子供たちが安心して学業に励むための支援ということでありまして、現在家庭の経済状況が厳しく、バス通学費用に充てるためアルバイトで勉強する時間が削られている生徒がいること、また、貧困対策としての観点、将来にわたって継続可能な支援ができるかどうかというもの、そういうものを踏まえて、支援対象をどうするか、支援内容をどうするかということで検討しているところでございまして、現在は決まっているわけではございません。検討を進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 再質問にお答えさせていただきます。

具体的な検討状況については先ほど教育長が答弁をさせていただいたとおりでございますが、私は知事公約に掲げたその一つ一つを丁寧に実現するために、それぞれの部局においての調査、検討、判断などについて丁寧に進めさせていただいております。バス通学の無料化に当たっては、当然ですがバス事業者との協議など、これからはまた精緻に詰めていくこともありますので、そのようなことを積み重ねていながら、特に貧困問題対策など、一丁目一番地の子供の貧困について取り組みを前進させていくという県の姿勢とも重ねながら、しっかり検討して実現していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○議長（大城優衣さん） 首里高等学校の皆さん、よろしいですか。

〔「再質問なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（大城優衣さん） 那覇国際高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔那覇国際高等学校一同登壇〕

○金城 実李さん 那覇国際高等学校1年の金城実李です。

よろしくお願い致します。

質問項目1、県立図書館の自主学習スペース設置について質問いたします。

県立図書館のホームページによると県立・市町村立図書館を含めた沖縄県内の図書館は39館あり、そのうち自習スペースを設けている図書館は私たちが調べた範囲で31館ありました。県立図書館はバスターミナルが併設されており、生徒にとって利用しやすい場所にあります。多くの高校生は自主学習を目的として県立図書館を利用したいと考えていますが、県立図書館では持ち込み学習が禁止されており、自主学習ス

ペースも設けられていません。沖縄県生涯学習計画では、潤いと生きがいのある生涯学習社会の実現を掲げており、県民の学習ニーズに応える学習機会の充実を推進しています。以上で述べたことより、県立図書館の館内に自主学習スペースを設置してみたいかと思いますが。それについて県の見解を聞かせてください。

○川村 梨紗さん 那覇国際高等学校1年の川村梨紗です。

よろしくお願い致します。

次に、質問項目2、バス停やバス車内の表示の明瞭化と多言語化について質問いたします。

内閣府沖縄総合事務局が行った平成29年観光ニーズ調査によると、那覇空港案内所に寄せられた問い合わせ内容は、国内線、国外線ともに交通機関に関する問い合わせが8割を超えています。その中でも、バスに関する問い合わせ件数が最も多くなっています。また、沖縄県は観光業が盛んであり、那覇空港国際線ターミナルからもバスが多く出ているため、外国人観光客もホテルまでの移動などにバスを利用している姿をよく見かけます。

しかし、バス停やバスの車内の表記には日本語表記のみにとどまっているものが多く、外国人観光客にとっては利用しにくいのではないかと考えました。バスをもっと利用しやすくするために、ピクトグラムや、外国人向けのサービスとして多言語での表記などの導入を検討してほしいと考えています。それについて県の見解を聞かせてください。

質問は以上です。御答弁よろしくお願い致します。

○議長（大城優衣さん） 知事玉城デニー君。
〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 那覇国際高校の御質問にお答えいたします。

バス停やバス車内の表示の明瞭化と多言語化についての、外国人向けの他言語表記などの導入についてお答えいたします。

沖縄県では、外国人観光客を含む利用者への案内を充実させるため、バス車内に、日本語のほか英語、中国語、韓国語でバス停情報を表示する案内表示器の導入を支援してまいりました。このほかにも、バス停標識のサイズを拡大し、経路地別に色分けした英語併記の系統図を掲載するなど、バス事業者が行うバスの利便性の向上に関する取り組みを支援してきたところです。また、県では、観光客の利便性及び満足度の向上を図るため、大手検索サイトで公共交通の乗りかえ検索が実現できるよう取り組んでいるところです。

県としては、引き続き、バス事業者と連携し、県民及び外国人を含めた観光客の移動利便性の

向上に努めてまいりたいと考えております。

そのほかの質問につきましては、部局長から答弁をさせていただきます。

○議長（大城優衣さん） 教育長平敷昭人君。

〔教育長 平敷昭人君登壇〕

○教育長（平敷昭人君） 那覇国際高校の御質問で、質問項目1の県立図書館の自主学習スペース設置についてお答えいたします。

図書館法において図書館は、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保有して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」と位置づけられており、基本的には、図書館資料を利用した読書や調査研究を支援する施設であると考えております。自主学習スペースについては、先に述べた本来の目的で訪れている方の利用に支障を来さない範囲内で確保する方策がないか検討したいと考えております。今後も、利用する全ての皆様に気持ちよく利用していただけるよう、適切な運営を図ってまいりたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 那覇国際高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔那覇国際高等学校一同登壇〕

○久志 顕介さん 那覇国際高校1年の久志顕介です。

御答弁ありがとうございました。

このたびは、今回このような貴重な体験をさせていただき、心より感謝いたします。また、今回この高校生議会に参加した我々那覇国際高校はもちろん、ほか17校の皆さんから、あすの沖縄を想像し、明るい将来を構築し、美ら島沖縄を守り続ける、そういった強い信念を沖縄全土へ広げることができればと思うことができました。愛する郷土、この沖縄という地を、何百年、何千年、何万年と次世代に受け継ぎ、歴史を伝え文化を継承し、今後の沖縄をより一層発展させていきたいというかたい決意のもと、感謝の言葉とさせていただきます。

このたびは本当にありがとうございました。

以上です。

○議長（大城優衣さん） 商工労働部長から発言の申し出がありますので、これを許可します。

商工労働部長嘉数 登君。

〔商工労働部長 嘉数 登君登壇〕

○商工労働部長（嘉数 登君） 先ほどの宜野座高校議員からの大人の学び直しの制度に関連して、県立職業能力開発校以外での対応についての御質問についてですけれども、先ほど、民間の専門学校等で、指定講座についての答弁をさせていただきました。実は県内には県が運営す

る県立職業能力開発校2校のほか、国が運営するポリテクセンター沖縄、それから沖縄ポリテクカレッジという、合計4校の公共職業訓練施設がございます。また、ポリテクセンター沖縄ですけれども、中小企業等の在職者を対象に、職業に必要な高度な技能及び知識を習得する職業訓練ですとか、離職者を対象に企業の実態に即した職業訓練により、早期の再就職を支援しております。在職者訓練、それから離職者訓練といったものを実施しております。

それから、沖縄ポリテクカレッジ。こちらはより高度な訓練内容となる専門課程、2年ですね。それから応用課程として、専門課程プラス2年の高度な職業訓練を実施しております。専門課程がその生産技術ですとか、電気情報技術課、それから応用課程では、生産電子情報システム課等々が用意されております。両校とも非常に高い就職率を誇っております。

県としましては、国とも連携しながら、時代の要請を踏まえた効果的な職業訓練を実施していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大城優衣さん） 以上をもって、高校生議会議員質問は終わりました。

日程第3、沖縄県知事挨拶を行います。

玉城デニー沖縄県知事、御登壇願います。

〔知事 玉城デニー君登壇〕

○知事（玉城デニー君） 県議会110周年を記念して行われました高校生議会、56名の高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでした。

皆さんが実際に登壇し、質問を行ったことで、県議会がどのような状況で行われているか等、肌身に感じることができたことは、大変貴重な経験になったと思います。今回皆さんから通学で利用するバスに関する身近な問題や、教育、基地関係、環境、医療、福祉、観光、文化の振興、子供の貧困、人材育成など、沖縄県が抱える多くの課題に対して、多岐にわたる質問をいただきました。私自身、皆さんの社会を見る視野の広さに、本当に感服いたしました。

私からのお願いとすれば、今回の議会でのやりとりを、ぜひ、できるだけ覚えている間、いろんなことをメモをして、持って帰った後、友人や部活の仲間や、そしてもちろん学校のみならず家族の皆さんと、共有をしていただきたいと思います。どうすれば問題を解決することができるのか。一人一人が考える意識を持ち、協働してあるいは連携していくその姿勢をつくっていくことで、今の沖縄県をよりよくしていくことができると思います。

また、きょうの高校生議会を通して、高校生の皆さんから、私は大きな励ましもいただいたと思っております。今後、県民一人一人がかか

わる新たな時代に対応した、沖縄の発展を目指したSDGsを推進し、一段と皆さんの期待に応えていけるように、執行部を挙げてより一層努力していかねばいけないという決意も、新たにさせていただきました。県の執行部と県議会は、地方自治を支え合う者同士で、お互いに連携を図りつつ、それぞれの役割を果たしていくことが重要であると考えています。本日の高校生議会をきっかけとして、県の行政や議会活動にも関心を持っていただき、沖縄県をよくするために何ができるのかを、皆さんなりにお一人お一人が日ごろから考えてくれると、私も本当にきょうの議会が、皆さんの経験に必ず生かされると思いますし、その一つ一つの積み重ねが、将来の沖縄県をよくしていくための、皆さんの将来にもしっかりとつながっていくと、私はそのように思います。

18歳からは選挙権を持つことになります。皆さんが自分で考え、政治に希望を託すための投票をすること。自分の意思を選挙で示すこと。それが皆さんの未来をつくり、沖縄の未来をつくり、民主主義を育てることにもなるんです。一番大事なことは、今やるべきこと、やれることを一人一人が意識し、考えながら取り組んでいくことだと思います。一歩ずつでも構いません、半歩ずつでも構いません。自分で考え、自分でアクションしていくこと。これが最も大切な、自分なりの生き方につながっていくと思います。

もちろん、人生においては、時には失敗することもあるかと思っています。でも、失敗を糧にして、また一生懸命頑張り続けることで道は開けてきますし、一生懸命できることに取り組むことで、将来の夢や希望が実現することができま

す。私も実は皆さんの年ごろには、政治の道に進むということは全く想像していませんでした。しかし、人生を歩んでいく中で、たくさんの方々から、いろいろなことを教えていただき、学ばせていただき、考えることによって、自分自身の人生をどのように生きていくかということが、私の今の仕事につながっていると思います。ですから、その自分で考え自分で取り組むことを、私も皆さんと同じように一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

皆さん、高校生は、将来の沖縄県の発展の宝です。きょうの質問にもありましたが、10代の自殺についての質問がありました。私は、皆さん一人一人、かけがえのない存在だというふうに強く思います。今後の、皆さんが自分で考え、自分が何ができるかによって、世の中が変わっていくということを、ぜひ皆さんが人生の中で、これからも体験してってください。そして、

より多くの友人や仲間たち、御家族の皆さんと、一つ一つの物事について語り合いながら、自分自身の心もまた育てていただければと思います。

最後に、先日首里城が焼失いたしました。この状況を目の当たりにし、きょうの答弁でもお答えいたしました。私も首里城の焼失の現場を見たときには、本当に言葉を失ったような、心に大きな穴があいたような、そういう大きなものを失ったという思いにかられましたが、同時に、これから私たちがまた未来に向かってしっかり立ち上がらなくてはいけない、首里城を、ウチナーンチュの心として、歴史、文化の象徴として再建、復興させなければいけないという思いも強くいたしました。ぜひ、皆さんと力を合わせて、これからも沖縄の未来に向かって全力で取り組んでいきたいと思っています。皆さんお一人お一人も、毎日の自分の時間を大切に、これからも有意義に学生生活を送ってください。そして、将来に向かって皆さんが大きく羽ばたくことを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

沖縄県知事、玉城デニーでした。

イッペー ニフェデービタン。お疲れさまでした。ありがとうございました。

○議長（大城優衣さん） 玉城知事ありがとうございました。

日程第4、高校生議員代表挨拶を行います。

宜野座高等学校の皆さん、御登壇願います。

〔宜野座高等学校一同登壇〕

○仲本 妃那さん 宜野座高等学校の仲本妃那です。

本日は、令和元年度高校生議会を開催していただきまして本当にありがとうございました。

私たち宜野座高校では、日ごろ、現代社会の授業などで新聞記事を通して社会的課題や問題に関してアプローチしており、自分たちなりに社会のことについて考えているつもりではありましたが、今回参加し多くの高校から出された質問内容とそれに対する答弁を伺うことで、地域のことに関してまだまだ知らないことが多いことを知りました。今まで以上に地域や沖縄のことについて、学ばなければならないと強く思いました。

また、事前の興味・関心をもとに調べ、今回の疑問・質問を提出させていただきましたが、見識も狭く、力不足の部分もあり、質問内容に拙い部分もあったと思います。しかし、玉城デニー県知事を初め各部局の皆様から、丁寧に御回答をいただき心から感謝申し上げます。また、この高校生議会を開催していただいた新里米吉県議会議長を初めとする県議会議員の皆様方、事前研修から細かなサポートをしていただきま

した県議会事務局の皆様方、本当にありがとうございました。

今回の高校生議会への参加に当たって、私たちは、就職率、大人の学び直しの制度、貧困対策について質問させていただきましたが、県と教育庁、大学等との連携によるキャリア教育やインターンシップ制度、リカレント教育としての県立職業能力開発校における取り組み、子供たちの将来が生まれ育った環境によって左右されることなく、夢や希望を持って成長していける社会の実現を目指した積極的な施策について知ることができました。

今回の経験をもとに、さらに学びを深めて、受け身で待つのではなく、私たちの沖縄を私たちの手で積極的・主体的によくしていくための学びを深め、行動に移していきたいと強く思いました。一人の主権者として、責任を持って政治に積極的に参加できる人になりたいと思います。このように思えたのも、今回のこの高校生議会に参加できたことがきっかけとなりました。今回学んだことをできるだけ多くの場で伝える努力をして、ぜひ、この高校生議会の場をもっと多くの高校生に知ってもらえる努力をしていきたいです。そして、私たち若者世代がともに手を取りつながり合い、安心して住みよい、元気の出るまちづくり、沖縄県づくりの主体者になり、多くの県民が誇れる沖縄県づくりに取り組んでいくことを決意し、御挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

○議長（大城優衣さん） 宜野座高等学校の皆さん、ありがとうございました。

日程第5、沖縄県議会副議長挨拶を行います。

赤嶺 昇 沖縄県議会副議長、御登壇願います。

〔沖縄県議会副議長 赤嶺 昇君登壇〕

○沖縄県議会副議長（赤嶺 昇君） 皆さんこんにちは。

高校生の皆さん、長時間にわたり活発な議論をいただきまことにありがとうございました。また、きょうは朝早くから引率された学校関係者の皆さんも、大変お世話になりました。県議会を代表して、厚くお礼を申し上げます。また、玉城知事を初め執行部の皆様には、忙しい中御出席をいただき、丁寧な答弁をいただきましてありがとうございました。

今回の高校生議会2回目、10年ぶりということなんですけれども、私の感想を述べさせていただくと、これは10年に一遍じゃなくて、もっと数をふやしたほうがいいんじゃないかなとすら思いました。皆様方の、特にバス利用とか、そういう自分たちに直結する課題を積極的に質問されておりましたので、まさにここ県議会は議論の府でございまして、沖縄県における最高

議決機関なんですね。ですから、皆さんの生活に直結するいろんなことがこちらで決まっています。したがって、きょう皆様が取り上げた質問等についてもですね、やはりいろんな議論の中で決まっていますから、皆様方の意見がもっと反映できるように私たち県議会議員も考えていかないといけないんじゃないかなと思えました。

きょう、緊張した皆さんは手を挙げてもらっていいですか。

大丈夫ですか。緊張した人。向こうから見ると、皆さん大変朝、非常にですね、表情に出しておりました。私は、先ほど教育長に言ったのは、あと1回か2回やったら、皆さん再質問ももっと鋭くなるんじゃないかなと思えました。そうしたら教育長が、なれたら困るなということも言っておりましたので、きょうが初めてなので、これが中には、自分もう少し再質問考えればよかったなということも含めて、きょうの経験は持ち帰って、こういう質問の仕方はよかったんじゃないかな、もう少しやってもよかったなということ意識を持つということは大変大事だと思っております。

本県議会は、毎議会——年に4回やるんですけども、インターネット等でも見る事ができるんですね。ですから、いろんな議員がどのような質問をするということも、ぜひとも関心を持っていただいて、こんなことが質問されるんだなということを見て、自分だったらこういう角度から質問をしたいなということも含めて、意識を持っていただきたいなと思っております。そうすると、自分であればこういうふう考えるということ、皆さんきょう一回経験しておりますから、それをまずはやっていただいですね、

友達同士でも話をするということとはとても大事じゃないのかなと思っております。

この議場に来て、将来自分議員やってみたいなと思った人いますか。

まだいないんですね。ちょっと残念ですね。私としては、ぜひとも半分くらいは手を挙げてほしいなと思ったんですけども、これからの沖縄の将来はですね、私たちは、見本にまだなっていないなということをやっと反省をしながら、将来皆さんの中から、ぜひとも、県議会議員と言わず、政治の道に進んでいただければ、あのとき高校生議会に出たメンバーから政治家が誕生したなということが言えるような、きょうの高校生議会がそういうふうにつながっていければなと思っております。

結びになりますが、皆様方がまたこれからも、沖縄県の発展のために、そしてきょうの経験をさらに生かしていただきますようお願い申し上げ

げて、私の挨拶にかえさせていただきます。

きょうは本当にお疲れさまでした。

○議長（大城優衣さん） 赤嶺副議長、ありがとうございました。

以上をもって、本日の日程は全部終了いたしました。

これをもって、令和元年度沖縄県高校生議会は閉会となりますが、県内の各地区から参集しました高校生議員各位には、長時間熱心な御審

議をいただき、高校生議長として感謝申し上げます。

私たちは、今回の貴重な体験を生かし、将来、我が沖縄県を背負っていく人材となり得るよう、今後努力していきたいと思えます。

以上をもって本日の議会を閉じます。

これをもって、令和元年度沖縄県高校生議会は閉会いたします。

ありがとうございました。

